

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 2 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870900259
事業所名	グループホーム どんぐり
(ユニット名)	檜
記入者(管理者)	
氏名	栗 育子
自己評価作成日	令和 2 年 6 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>自分らしく生きる楽しい暮らし</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の家族の参加については、玄関に掲示をしたり、参加していただけたらいい方に、声を掛けるも参加には至っていない。 ・介護記録の書き方については、勉強会を行い以前に比べると、内容のある記載に変化しつつある。 ・家族にイベントに参加依頼をする事については、まだ十分に行うことができていない。個別には実施。施設新聞発行についても未実施である。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>母体法人は医療機関で、事業所の周辺には老人保健施設等の同法人の様々なサービス事業所や施設が隣接している。事業所を含む敷地は広々としており、人や車の出入りも多く活気が感じられる。事業所内では複数のユニットが合同でレクリエーションを楽しむことも多く、賑やかな雰囲気を利用者の表情も明るい。また、事業所には勤務歴の長い職員も多く、職員同士しっかりとコミュニケーションが取れている。職員一人ひとりの得意な業務をうまく配分することで、利用者との双方にとって快適な環境となるよう努めている。</p>
--------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時に、利用者や家族より希望や意向の確認をし把握している。入居後も、会話の時間を十分に確保し、入居者の思いを理解把握しスタッフ間で共有している。	◎	/	◎	職員は、日々の支援の中で利用者一人ひとりと丁寧に向き合い、思いや意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用者本人の生活歴や性格、家族からの情報等から、本人の気持ちや思いを引き出すようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族には、面会時には必ず、日々の生活状況等について伝えるようにしている。家族との会話の中で、本人の思いを引き出しケアに生かすことができている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	計画書に本人や家族の意向を記載し共有化している。計画書はいつでも閲覧できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員目線ではなく、利用者の立場になり物事を考えられるように意識付けをしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時には利用者や家族と面談をし確認をしている。入居後も、家族面会時には、十分に話しをする時間を確保し、情報を得られるようにしている。	/	/	◎	入居時に利用者本人や家族のほか、在宅時に利用していたサービス事業所、担当していた介護支援専門員等からも聞き取りを行い、これまでの暮らし等を把握している。また、入居後の家族等の面会時には、職員もゆとりと時間を取ってコミュニケーションを図るよう心掛けており、利用者の生活歴やこだわりなどの把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	今日出来た事、出来そうな事、興味のある事など、スタッフ間で情報共有し、ケアに繋げている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	細かい表情や、言葉等、日々の些細な変化に気づいた事は、スタッフ間で共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安定な時には、その行動のみを見るのではなく、要因について考えるようにし、スタッフ間で話し合い共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送り時の伝達や、個別記録表に日々の違った様子を記載し把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	利用者の気持ちやニーズについて考えるようにしている。家族にも状況を伝え話し合う機会を持っている。	/	/	◎	職員は日々の支援の中で、利用者の変化を共有したり、検討したりする場を設けている。あらかじめ日時を決めてカンファレンスを行う形ではなく、日頃から利用者の気になる点があれば、主任を中心に職員間でこまめに話し合い、より良いサービスの検討を深めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	理念にあるように、利用者が自分らしく暮らす事ができるような視点で考え検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明確するように努力している。	/	/	/	

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人や家族のニーズに応じた介護計画作成を、心がけているが、十分ではない。	/	/	/	各ユニットごとに配置している計画作成担当者・介護支援専門員が、利用者本人や家族の思いを反映して介護計画を作成しており、職員は利用者の日々の何気ない会話の中から思いが引き出せるよう留意している。日常的に職員から利用者についての気づきは主任に申し送られているため、職員の意見も活かした計画になっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族と利用者とは、頻繁に話す機会を持つようになっている。しかし、得た情報や意見がなかなか、介護計画に上手く生かす事ができない部分がある。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思疎通が困難な重度の利用者に対しては、家族からの聞き取りや、生活歴等から把握するようにし、介護計画に取り入れている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力体制は盛り込んで介護計画を作成しているが、地域住民については、盛り込んでいない場合が多い。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	全員が十分な把握はできていないが、意識して介護計画を確認し理解するように努めている。	/	/	/	介護計画の内容は職員間で共有しているものの、利用者の日々の支援につなげ、その記録を作成する段階にまではまだ至っていない。日々の暮らしの中で起こった出来事や利用者が話した事実をそのまま記録として書き残すことができるよう、職員間で勉強会を開催し、その後も主任が指導している。職員は、「利用者を丁寧に見ていないと細かな記録は書けない」と意識するようになってきている。話し合った内容も口頭で伝達されることが多く、記録に残すことが少ない。職員の個人差もあり課題も残っているが、前回の外部評価時に比べ、徐々に改善している様子が見られており、今後のサービスの向上に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	記録に関しては、介護計画に沿った記載があまりできていないが、職員間で共有するようにはしている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	個別記録に記載し残すようにはしている。誰が見ても分かり、支援に繋がれるように細かく記載するようにはしているが、スタッフにより差がある。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別記録表に記載し共有するようにはしているが、記録の内容にスタッフにより差がある。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月ごとに見直しを行っている。職員は日々の支援の中で気づきや新たな要望等を、日頃から主任や計画作成担当者に個別に伝達しており、その都度検討して新しい計画に反映している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	現状を把握し確認と共有をするために、ミーティング時にスタッフと話し合いをしている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態が変化した際には、必ず家族に報告をし、家族や本人の意向を確認している。それにより、随時計画書に取り入れるようにはしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	定期的に見直しを行っている。ミーティングを行うようにはしているが、できない事もあり。緊急時には随時行っている。	/	/	△	毎月、事業所単位で勉強会を実施しているが、定期的に利用者のサービス等を話し合う会議は開催していない。緊急か否かにかかわらず利用者の気になること等があった場合には、その都度その場にいる職員と主任を中心に話し合いの時間を持っている。話し合った内容は主任から他の職員へ口頭で伝達するほか、申し送りノートで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	自発的な発言ができるように、話しやすい雰囲気作りをしている。また、人の意見に対して、否定的な発言にならないようにはしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日時は、勤務表や業務の予定を決め、早めに決めるようにはしている。休みのスタッフについては、可能であれば参加をお願いしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できないスタッフには、会議内で検討する内容を事前に提示し、意見を得ている。その意見を含め会議を行い、会議後は書面にて説明をし周知できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	入居者の状態については、ユニット単位で記録を毎日し、スタッフが閲覧できる状態にしている。スタッフ全員で共有するノートも活用している。	/	/	◎	申し送りノートを活用するほか、職員に口頭で伝達している。主任の配慮が行き届いており、職員への伝達不足は全く見られない。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにはしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	スタッフ全員が、出勤時に必ず確認をするノートに記載し周知できるようにしている。また、必要に応じて全員が周知できるまで毎日口頭で伝えたり、詰所内に掲示もしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	会話の中から把握し、叶えられるように努力している。				職員は利用者のやりたいことを最優先にして支援している。訪問日には利用者の様子や表情からも、自分のペースで穏やかに暮らしている様子が感じられた。着るものや食べたい物を利用者に選択してもらうだけでなく、職員から興味のあるものを予測して積極的に誘ってみるなど、利用者のやる気を引き出す支援にも努めている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	衣類や食べたい物、日々の暮らしのペース等、選択し自己決定できるように努めている。			◎		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者の状態に応じて、話し掛け方や、質問の方法を変えたり、話しやすい雰囲気作りに努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	起床、就寝については、利用者のペースに合わせるようにしている。入浴は、希望に応じて曜日やスタッフを変更したりする等対応をしている。排泄はも本人の行動や動作に合わせさせりげなく、誘導介助をするようにしている。					
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の言葉を復唱し、受容し受け入れられている安心感を得られるようにしている。個々に応じて、居室でじっくりと話しをする等対応をしている。			◎		
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	いつもと何かが違う、という些細な変化に目を向けるようにし、変化がある場合はスタッフ間で共有している。利用者の気持ちは思いを想像しケアを行っている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や勉強会に参加し学ぶ機会を取り入れている。何事も利用者の立場になり考えることができるように努めている。		◎	◎	○	日々の支援の中で、トイレへの誘導など声掛けが不適切だと感じる場面があれば、すぐに主任から職員に声を掛けて指導するようにしている。扉の締め忘れや声の大きさなど、些細な事柄であっても丁寧に指導を行い、管理者は職員の意識を高めていきたいと考えている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者に対して敬意や尊敬の念を持つようにしている。職員によりばらつきはあるが、声掛けの方法やトーン等配慮のある声掛けを行っている。				○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時には扉を閉め、排泄に関する言葉を控えるようにしている。入浴時には同様のスタッフが対応する等、可能な範囲で対応をしている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には必ずフックをし声を掛けて入るようにしている。また、居室内で眠っていたり、排泄や更衣をしていたりする時などは、一旦退室し時間をおいて訪室するようにしている。				○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修や勉強会に参加し意識付けを行い、職員全員が理解し厳守できるように努めている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お互いに協力しながら、生活をするという事を基本とし、できる事(掃除、洗濯、台所仕事)は行ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。役割を持ち頼られる存在であると感じてもらえるように努めている。				職員は利用者の関係性を十分に理解しており、利用者一人ひとりが快適に過ごすことができるよう日々配慮している。共用空間には、リビングの他にも廊下等にソファが配置されており、顔を合わせたくない利用者同士が適度に距離を置けるよう工夫している。より気持ちよく利用者が暮らしていけるよう居室やユニットの変更等も行われている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いの関係性を把握し、部屋の行き来や差入れの物のやり取り等、危険な事がない限り制限をしないで利用者達の思いに添えるよう努めている。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	職員は、利用者の性格や生活歴、認知症の症状など細かく把握をするようにしている。また、利用者同士の関係性の変化にも注意し、利用者全員が関わりを持つ機会を持つようにしている。関係性に応じて、食堂の席や居室の移動も随時行っている。			◎		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが発生した際は、関わりのある方全員に個別に話しを聞くようにしている。そこから解決策を考え、お互いが納得し不安が解消できるようにしている。					

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入居時に、家族に可能な限り聞き取りをするようにしている。また、面会時に話しし得た情報も、随時スタッフ間で共有するようになっている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入居時に、家族に可能な限り聞き取りをするようにしている。また、利用者の話等から情報収集を行い、スタッフ間で共有するようになっている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族に、自宅への外出や、なじみの美容室に行く等の支援をお願いしている。また、友人との交流ができるように、グループ内の他施設を訪問している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食堂にはソファや観葉植物を置き、過ごし易い環境を提供している。関係性やその日の雰囲気に応じて、面会の場所を変え提供している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天候をみながら、施設外を散歩したり希望に応じて買い物と一緒に歩く等支援をしている。重度の方も、身体の負担を考えながら可能な限り、屋外に出る事ができるようにしている。しかし、業務上の都合により、なかなか希望に添う事ができない事もある。	○	○	○	重度の利用者も含め、希望に応じて日常的に近隣への散歩に出掛けている。職員が同行受診する際には、利用者と一緒にスーパーで買い物をすることも多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方や、ボランティアへの働きかけは、十分にはできていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	近隣を散歩したり、玄関前で季節の植物を見たり、地域の秋祭りの太鼓台が来た時に見学する等、負担のかからない程度に行っている。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者の希望や意向を伝え、家族に外出の支援をお願いしている。また利用者の住んでいた地域の秋祭り見学に行ったり、地域を感じ思い出してもらえるようにしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会を行い理解するよう努めている。利用者の症状だけに目を向けず、背景にある要因を考えるよう意識付けをしている。	/	/	/	全体的に、職員から利用者へ手を出し過ぎず待つ支援ができているように見受けられたが、管理者はまだ職員の個人差があると感じている。気づいた場合は、管理者や主任から職員にその都度声を掛け指導している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下を防ぐために、今できている事に目を向け、続けられるように支援を行うようになっている。また利用者1人1人の状態を職員間で共有し、同じ支援ができるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できること、できそうな事を探し一度行ってもらうようにしている。危険な事がない限り、極力利用者任せられるようにはしているが、職員によってケアにばらつきがある。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入居時に得た情報と、日々の会話や生活スタイルから把握できるように努めている。	/	/	/	複数のユニット合同でレクリエーションを楽しんでおり、大人数になるため賑やかで楽しそうである。食事の際には盛り付けや廊下の掃除を日課としている利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の行いたい事を優先し、見守りの中に行ってもらっている。しかし、楽しみ事や役割のある生活への取り組みについては十分でない部分もある。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方やボランティアへの働きかけは積極的にはできていない状況。敬老会には、本人の意向を踏まえ、可能であれば参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	帽子や手袋など、本人の好む物を自己選択してもらっている。季節に合わない衣類等を選択している場合もあるが、本人の希望を確認しながらさりげなく声掛け対応している。				重度の利用者も含め、すべての利用者は季節に合った服装で過ごしており、整容の乱れも見られない。風のある日には夏場でも冬物の上着を羽織ろうとする利用者も多い。利用者自身の体感温度や室温にも配慮しながら、職員からさりげない声かけを行うなど、利用者の快適さを優先して支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者本人の希望や意向に添えるように対応をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	簡単に選択したり答えられるように、個々に応じて問いかけを変えたり、一緒に考えるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	気候や行事ごとに合わせて、可能な限り利用者と相談し決めるようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげない声かけをするようしている。他者の前では声を掛けない等、プライドを大切にするように対応をしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	利用者の希望に添えるようにしている。家族に依頼をしたり、家族が困難な時にはスタッフが送迎をしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	美容の際は、利用者が着ていた髪型や、配偶者の意向に添うようにしている。			◎	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は生きる力であり楽しみであると、意識し理解している。また、長い期間できる限り食物を、口から摂取できる事が大切である事を意識している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○		利用者の介護度が高く、調理をする事が難しくなっている。食べたい物(時期の物)を利用者に聞き少し手伝ってもらえる事はある。男性入居者もいる事から頻度が少ない。			○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○		男性の利用者や、介護度が高い方もおりあまり実施はできていない。しかし、簡単で可能な事は時々行ってもらっている。					
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎		入居時には、嗜好品や禁忌食については聞き取りをし周知している。					
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎		季節感を感じてもらえるように、旬の物を提供するようにしている。旬の食材は、可能な限り利用者に触れてもらい調理をするようにしている。また、昔懐かしい素朴な菓子等も作っている。			◎		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	◎		嚥下の状態や体調に応じて、食事形態を検討をしている。元の食事形態に戻れる事を目標にケアを行い、随時再検討をしている。食欲がでるように、盛りつけをするように努めている。					
g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○		居室の湯飲みや急須は自宅で使用している物を持参してもらうようにしている。食事時には施設で提供している。			○		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎		介助が必要でない利用者の場合でも、同じテーブルに座り一緒に食事をしながら、食事摂取状態を観察したり、できない部分の介助を行っている。			◎		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎		食事前には、今日のメニューや、食物や調理方法等、食事に関わる話しをしている。また、調理している際の香りや音を感じてもらえるようにしている。	◎		◎		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎		随時栄養士と相談し、補助食品を取り入れたりする等対応をしている。水分管理が必要な方には、1日の摂取量の目安を決め、確実に摂取できるようにしている。					
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎		栄養補助食品を取り入れたり、利用者の嗜好に合わせて、家族に食べられる物を依頼している。一回量が少ない方に関しては回数を増やしたり、しっかりと覚醒している時間帯に食べる事ができるようにしたり工夫をしている。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎		グループ施設内の栄養士と栄養面や、利用者の好みを相談しメニューを決めている。毎月1回は同グループ内のスタッフで話し合う機会を持っている。			◎		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○		台所は整理整頓、消毒を徹底し衛生面に気を付けている。また、食材は可能な限り新鮮なものを購入できるようにしている。					

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性と重要性について、随時勉強会を行う事で、理解できるようにしている。	/	/	/	月2回、利用者は歯科医による訪問診療を受診している。治療だけではなく、利用者や職員は必要に応じて口腔ケアのアドバイスを受けられる環境である。職員は利用者の口腔内の状況を把握しており、日頃から適切な支援が行われている。また、情報を職員間での共有や家族等への報告にも活用できるよう、より詳細な記録の作成の検討もして欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	利用者1人1人の口腔内の状態を把握し、状態に応じて訪問歯科にて検診や治療を行っている。また歯科医からのアドバイスも受けている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科の医師に、相談し口腔ケアの方法について支援を受け実施している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の状態に応じて適切に洗浄し、義歯洗浄剤にて浸け置き消毒している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後には、利用者の状態に応じて、自分で可能な部分は行ってもらおうようにしている。出来ない部分の介助を行ったり、さりげなく洗い直しをしたりするようにしている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔ケアの介助時や、本人の訴え、食事摂取量等から、口腔内の状態を把握し、随時訪問歯科や、かかりつけ医にて診察を受けている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会や、申し送りの際に排泄への理解を深めたり、排泄状況に変化があれば随時検討している。排泄は排泄ケアのみでなく、生活の質の向上に繋がるという事を、意識している。	/	/	/	トイレで排泄することを基本とし支援しており、利用者の状況に合わせて紙パンツやパッドなどを組み合わせて活用する工夫をしている。日々の支援の中で職員に気づきがあれば、その都度主任を中心に話し合いをしている。話し合われた内容は申し送りノートや主任から口頭で伝達し、職員間で共有している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘をしない支援をするために、原因や影響については理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄管理表に記録を毎日する事で、排泄リズムを把握するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	可能な限りはトイレで排泄をするという事を基本的支援と考えている。身体や認知症の状態により、随時検討している。また、随時家族にも相談をし、検討をしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	少しでも、気持ち良く排泄ができるように、随時改善策をスタッフ間で考えるようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄する場所や時間帯など、排泄管理表も参考に考え、スムーズに排泄できるように随時検討している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人の意向に添う事ができるように、可能な限り選択をってもらうようにしている。また、随時相談があればスタッフはアドバイスをしている。おむつを使用する場合は、必ず家族にも話し本人の気持ちを考えようとしている。また、本人の好みの物を購入してもらう事もある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者に応じて、サイズや種類を随時使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分量の管理や、マッサージ等を行っている。身体を動かす運動や、散歩も取り入れ便秘予防に努めている。また、水分には、お茶に甘みを足しゼリー状にした状態で提供している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	基本的には週2回程度で曜日は固定されている。しかし、利用者の意向や、体調に応じて随時曜日を変更している。また、ゆっくりと入浴する事ができるように、利用者のペースに合うようにしている。	◎	/	◎	基本的に曜日や時間帯を設定して順番に入浴することができる。職員は利用者からの希望があれば、柔軟に変更対応している。事業所には機械浴槽の設備が増築されたため、浴槽のまたぎが難しくなってきた利用者も浴槽につかれるようになるとともに、職員の負担も軽減にもつながっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	羞恥心やプライバシー保護に努めている。利用者の状態や意向に合わせて支援の方法を変えている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	利用者が自分でできる事は、行ってもらおうようにしている。危険のないよう見守りを行ったり、十分でないところは、さりげなく手伝うようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	利用者の希望や意向を、一番に考えるようにしている。数日前や直近の出来等からも推測し利用者の事を理解するようにしている。時間をおいて声かけをしたり、入浴日を変更する対応をしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認と、利用者の状態確認後に入浴の可否を決めている。入浴後や、水分補給を行い状態確認をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	昼と夜の睡眠パターンの把握をしている。	/	/	/	1～2名程度、睡眠導入剤を服用中の利用者がいるが、職員は主治医と相談し、できるだけ減薬できるよう支援に努めている。寝つきの悪い利用者には職員が寄り添ってのんびりと会話を楽しんだり、飲み物を飲んだりしながら穏やかに過ごせるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠の方については、日中の過ごし方を考えたり、入眠前に温かい飲み物を提供しリラクセスできる雰囲気を作る等している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者の昼夜の状態や、精神面、活動性の状況を報告し、医師に指示を仰いでいる。なるべく、薬に頼らず日々のケアで改善できるように努めている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者は、自由し居室に行き休むことができている。また重度の方については、適度に臥床し休む事ができるように支援している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	公衆電話は自由に利用できるようにしている。自分でかけられない場合はスタッフが対応をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	代筆をしたり、一緒に電話を掛けたり、スタッフが掛けた電話で話しをしたりする等の支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	家族や友人の了承があれば、時間帯を配慮し本人の意向に添い電話をできるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙は利用者本人にその日に手渡している。代読したりする等個々に対応をしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	利用者の希望時には、電話受取りと対応の協力をお願いしている。遠方の家族については、手紙の依頼も行っている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	金銭を自己管理し、自分で使う事は社会生活を送るに当たり大切な事である。また、本人の満足感や意欲向上に繋がる事を理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的に金銭を使う機会を作ることはできていない。外出イベントの際に外食をしたり、希望者と一緒に買い物に行ったりはしている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	数名で買い物に行く場合は、事前に連絡をし行くようにしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	日頃の状態を観察し、利用者の状態に応じて家族と相談し、少ない金額を持参してもらう事もある。また、自己管理している金銭で買い物の希望があればスタッフ同行で行き、支払いの支援をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	金銭に関わる事は、しまい込みによる紛失の可能性もあるため、細かく家族と決めるようにしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的には金銭の預かりは行わない。家族が遠方でありやむを得ない場合は、出納簿を記入し随時確認とサインを受けている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	馴染みの美容室の希望があれば、スタッフが同行したりする等、可能な範囲でニーズに答えられるように対応している。	◎	/	◎	利用者の希望に応じて、馴染みの美容室や歯科等へ、職員と一緒に出掛けられるよう柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には観葉植物や、花を飾り小物等も置いて暖かみのある雰囲気を作るようにしている。玄関にはベンチも設置している。	◎	◎	◎	玄関にイスが数脚配置されており、利用者は座って会話が楽しめるよう工夫をしている。玄関には植物が飾られているほか、事業所の名称にちなんだ小物やベンチがあり、家庭的な雰囲気で作所者との会話が弾むきっかけにもなっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いている殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	マッサージチェアや、観葉植物、雑誌、陶芸作品等を置いているが、家庭的な雰囲気という事ではない。しかし、利用者が食堂に集まり易い環境にはなっている。	◎	◎	◎	事業所内は全体的にシックな色調の空間となっており、家庭的で落ち着いた雰囲気である。リビングの大きな窓から海が見え、事業所内に風もよく抜けることから、とても心地よい共用空間となっている。掃除が行き届き、臭気も全く感じられず、雑誌や新聞などがさりげなく置かれている。エレベーター前のスペースには職員が活ける生花が飾られ、季節感を感じることができる。訪問日には食事やレクリエーションの時間帯以外でも、利用者の多くはリビングで穏やかに過ごす様子が見られた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	随時、換気を行い臭いには注意するようにしている。玄関近くにはオゾンを設置している。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食堂の北側には窓があり、海の波の形により天候や風の強さを感じる事ができる。また、季節感を感じられるように、ひな人形を飾ったり、季節の花を生けたりしている。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファやベンチを置き、会話が出来る環境を作っている。利用者個々に自分の場所があり、自然とそこに寄り自然と会話が始まる居場所がある。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレは居室入り口付近にあるが、トイレと居室扉を開める事で中は見えなくなっている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族の写真を飾ったり、自宅で使用していたソファを置いたり等している。	◎	/	◎	居室には一通りの家具が備え付けになっているが、自宅からソファや棚など持ち込む利用者も多い。居室入り口には木製の表札を掲げている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室が分かりにくい方には、分かり易い物をドアノブに掛ける等し、居室の出入りが自分で行えるようにしている。また身体状態に応じて、手すりの取り付けや、居室内の家具の位置交換など随時行っている。	/	/	◎	自分の居室が分かりにくい利用者には、目印になるようぬいぐるみをさりげなく置き、分かりやすい工夫をしている。また、食事の盛り付けや片づけ、掃除などの役割を日常的に行う利用者もいる。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	混乱、不安、失敗があれば原因を考えるようにしている。同じ事が繰り返されないように、随時対応するようにしている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうきは、すぐに取り掃除ができるような所に設置している。裁縫道具を持ち、スポンの握上げやゴムの入れ替えを行っている方もいる。食堂は、物が少なく、さりげない空間作りができているとは言えない。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	代表者や職員全員が、施錠をする事による、利用者の心理的な弊害について理解している。	◎	◎	◎	事業所の開設当初から鍵をかけないケアを実践しており、職員もお互いに声を掛け合い協力して支援ができています。研修は定期的に開催されており、職員は施錠することの弊害について理解を深めている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	施錠をしない事による、離脱のリスクよりも自由な暮らしの選択の理解を家族に図っている。しかし、利用者の精神、行動面の状況に応じて、一時的に施錠する事もある。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外に出て日光浴をする等、自由に玄関を出ることができるように玄関の施錠は日中はしていない。しかし、離脱のリスクも高い事から、近隣やグループ施設にも協力を得ている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者個々の病歴や注意事項については、共有のファイルやノートに記載している。また随時、申し送りでも共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日、バイタル測定を実施している。記録に残し些細な変化に注意し発見できるようにしている。変化やサインを介護記録に記載するようにはしているが、個々によりばらつきがある。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療施設が隣接をし、定期的に見守りが来ている。状態に変化があれば看護職と医師に速やかに報告をし、適切な処置を受ける事ができている。かかりつけ医には、書面にて状態報告をするようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入居時に希望される医療機関を確認し対応をしている。入居後も状態に応じて、家族や本人の意向を確認し対応をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	スタッフが受診に同行し主治医に状態を詳しく説明したり、書面で伝える等、関係の構築を図っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院の仕方については、事前に家族と相談し決めている。受診後の結果についても、スタッフが報告を受けるようにしている。スタッフ同行で受診した際は、その日のうちに家族に必ず報告をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	日頃の状態や、性格、精神面の状態を細かく情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中は、病院の相談員と細かく連絡を取り情報交換を行っている。退院に向けての支援も、家族の意向を踏まえ連携して行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	外部の研修会に参加し交流を図り、顔見知りになる事で関係構築できるように努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護師には、随時細かく情報を伝え相談をしている。医師にも状態に応じて直接相談をする事もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	併設医療機関で24時間、連絡相談できる体制の確保ができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者の状態観察を行い、随時看護師や医師の報告をし指示を受けられる体制を確保し、早期発見と治療につながっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の情報をファイリングし閲覧ができるようにして把握している。薬の変更がある場合は、専用のノートに記載するようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	氏名、用法、日付を確認しペンで必ず印を入れる。配薬チェック表にも印を入れ、名前を呼びながら配薬をするようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	状態の変化の注意し、変化があれば内服薬の影響も考えるようにしている。看護師や医師に相談し指示を得るようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬の服用状況や、服用後の変化等を記録し、随時家族、医師、看護師に報告をしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に終末期の意思確認を書面で行っている。またその時の状態により意思の変化がある事を踏まえ、随時確認をするようにしている。	/	/	/	現状では事業所で看取りは実施していないが、利用者や家族、主治医とも相談を重ね、職員はできる限り事業所で過ごしてもらえよう支援している。医療的な処置が必要な状況になった利用者の対応は困難な面も多くなって来るが、身体的に重度化した利用者には、機械浴槽を新しく増築したこともあり、職員の対応が可能になっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人、家族、職員、医師間で随時話し合いを共有する事ができている。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の不安な思いを理解している。職員の力量や施設の現状を踏まえ、どこまでの支援が可能かを判断をしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	施設として出来る事、できない事。医療が出来る事等、医療と介護を明確にし、協力して支援する事を伝え理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関とは密に連携を取り、家族とも共有している。家族の意向や気持ちにも配慮しチーム支援ができるように努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	対話の機会を持つようにしている。利用者の状態だけでなく、家族の不安や心配、悲しみを受けとめ、家族の変化する気持ちに寄り添えるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に研修や勉強会に参加し学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症の勉強会やミーティング、模擬訓練も実施している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新の情報を収集できるようにしている。グループ施設内でSNSを活用し共有できるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市町村からの情報や、インターネットを通じて情報収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	一動作一手洗いの徹底。マスクの着用。次亜塩素酸水や強酸水による消毒の徹底を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者のマイナ面に重点をおかず、プラス面を主として話をするようにしている。共有、共感し施設との繋がりを家族にも感じてもらえるようにしている。	/	/	/	定期的に洗濯物を家族が取りに来ている利用者もあり、家族等の面会は多い。面会時には積極的に職員から話す時間を設け、日頃の利用者の様子を報告したり、家族の要望を確認したりしている。運営推進会議等の行事案内を掲示しているが、管理者は周知が十分ではないと感じている。先日、エレベーター内に行事案内を掲示する工夫を試みたところ、家族からの反応が大きく、今後の周知方法の工夫のヒントになった。また、以前から課題にあがっていた事業所の便りや新聞といった形式での家族等への報告方法はまだ検討中であり、どのような形のものか職員間で模索している。職員と家族とのコミュニケーションは上手く取れているため、事業所の運営上の事柄や出来事について分かりやすく報告できる工夫を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時にはスタッフ全員が声を掛けるようにし、利用者の事以外に世間話をする等雰囲気作りをしている。いつ、誰が来て来やすい環境作りを努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	イベント時には家族に声掛けを行うが、なかなか参加には繋がらない状況。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	個々に応じて、画像や近況報告を記載した「たより」を作成し、遠方のご家族に送付している。しかし、全利用者には行うことができていない。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族からの質問や、不安なことについては随時答えるようにしている。また、意見箱の設置をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	入居時の聞き取りを基本とし、入居後は家族との関わり方から関係性を把握するようにしている。1人1人家族との関係性は違いがあり、その方に応じ構築できるよう支援をしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	来訪時の説明のみであり、利用者全員に伝わり理解を得ている状況ではない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	家族同士の交流の機会はまだあまり持てていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時にリスク説明を行い同意を得ている。状態の変化に伴い、随時家族にも相談し対応を決めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には、必ず日々の状態を説明するようにしている。また、家族が相談しやすい関係性の構築に努めている。転倒等の事故があれば当日に必ず連絡をする等、積極的に行っている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には文書を具体的に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居時には、しっかりと説明を行い家族や本人の意向を確認をしている。納得した退居ができるように、退居先施設や在宅CMと連携を取る事ができている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文章にて詳しい説明をし、同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を活用している。	/	◎	/	日常的に散歩の際に近隣住民と挨拶を交わす程度の交流に留まっている。運営推進会議の場で地域住民等から地域の行事に誘ってもらうことも多く、管理者は、「今後さらに地域との関係性を深めていけるのではないかと」感じている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	近隣住民の方には挨拶をするようにしている。利用者との散歩の際に会話をする機会もある。地域の敬老会に参加もしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	施設周辺に住宅が少ないが、温かい気持ちで見守ってくれていると感じる。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	運営推進会議の参加はあるが、地域の方が施設に来られる事は殆どない状況。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	住宅や住民が少ない事もあり、あまり住民の方と接する事は少ない。しかし、頻りに会う方とは、世間話をしたり、育てている柑橘類をいただいたり良い関係ができていく。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	グループ内施設で共同で、幼稚園の慰問を受けたりしている。施設単独での受け入れや働きかけは十分ではない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	参加の意向がある方や、身体の状態でも可能な方は、敬老会に参加をしている。地域からの夏祭りの誘いもいただくが、参加には繋がっていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	近くのスーパーに買い物に行ったり、近隣を散歩したりする等、地域に出るという事を意識している。スタッフ、利用者共に顔なじみの関係が構築できるように努力している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域住民の方の参加はある。家族には、掲示板を利用したり、個別にも声掛けを行い依頼するが、参加には至っていない。	×	/	△	定期的に運営推進会議を開催し、参加者に事業所での様子を報告したり、地域の行事に誘ってもらったりするなどの交流をしている。以前からの課題であった会議への家族の参加は、まだ改善ができていないものの、新しい利用者の家族に対して積極的に声掛けを行っているところである。また、運営推進会議の報告方法について、参加していない家族へ向けてより参加をアピールできるような工夫を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	利用者の状況や活動、外部評価や実地指導等の内容や、目標等について随時報告をしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	地域住民の方の貴重な意見は取り入れるようにし、状況報告も行っている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	年間で日時を設定しており、時間や日程の配慮については十分ではない。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	口頭で報告をしたり、希望に応じて書面を閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎日、朝礼で理念を復唱している。毎日復唱する事で共通認識を持つ事ができるようにしている。また、理念に添った支援ができるよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関やユニットに理念を掲示し、またスタッフのユニホームにも理念を記載している。入居時には詳しく理念を説明するようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修や勉強会に、積極的に参加できるようにしている。				法人内でスポーツ大会やマラソン部などの活動を行っており、管理者は積極的に職員のストレスを軽減するための環境づくりや取組みに努めている。職員から事業所内の人間関係がとても良く、離職も少ない様子を聞き取ることができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務を通して勉強をしたり、技術取得ができるよう取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や、勤務状態を把握し、定期的に評価をしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域主催の研修等や、介護支援専門員の研修会に参加できるようにしている。同業者と交流し、刺激を受け、情報交換する事で意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	社員旅行や、グループ内でのスポーツ大会、マラソン部の参加等、発散できる環境作りに努めている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	内外部の研修に参加し勉強している。				定期的に虐待防止などの勉強会も実施され、職員の学びの場が確保されている。事業所内で気になることがあれば、主任を中心にお互いに声を掛け合える環境があり、主任も職員の不適切なケアを見逃すことがないよう十分に留意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日、朝礼や申し送り内で話し合う機会を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	不適切なケアと少しでも思われる状況が発生した場合、すぐに主任や管理者に報告をする体制を取っている。時間を置かず、すぐに職員間で話しをし敏速に対応できるようにしている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員の態度や言葉に常に目を向けるようにしている。状況に応じて直接話しをしストレスや疲労が蓄積しないようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内外部研修にて学び、理解する事ができている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	委員会にて検討したり、朝礼の後に議題に取り上げて話しをしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族には、身体拘束をしないケアについて、弊害も含めしっかりと説明をし理解を得るようにしている。それに代替えとなる支援を見つけ提案をしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内外研修で学び理解している。成年後見人制度については、今までの事例がない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの相談があれば対応するようにしている。玄関にパンフレットを設置している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターやケアマネージャー等、相談できる関係性の構築はできている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時のマニュアル作成は行っている。また、消防から直接指導を受ける機会も持ち、周知できるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	消防からの救急隊による指導を定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	なぜ事故が起きたのか、なぜ事故が起きそうになったのか等を職員間で考えるようにしている。ヒヤリハットの時点で検討する事で事故に繋がらないようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の状態を報告共有し、リスクを推測し回避に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し周知している。苦情対応については、主任が主に対応する事としている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	相談、苦情マニュアルに沿い対応し迅速に行う事ができるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しては、対応と改善策を明確に提示するようにしている。家族や利用者との関係がマイナスの方向にならないように、対話をすすめるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	話しやすい環境や雰囲気作りを努めて、意見の内容により、個別に聞いたりする等対応を変えている。			◎	日頃から利用者には職員が個別に話を聞くように支援している。面会時には家族に対してもしっかりと時間を取り話を聞くよう努めている。家族からの要望はあまり出されないが、事業所としてできる限り要望に応えられるよう工夫して対応している。また、職員は気軽に主任に相談できる環境があり、相談内容によって主任から管理者につながることもできる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族来訪時には、話しや相談しやすい環境を提供している。しっかりと対話をするようにし、そこから要望を引き出す事ができるように努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初は行っている。入居後は、随時説明している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場に足を運び、意見や要望を聞くようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員1人1人の意見を聞く機会を持っている。利用者の事を思い、利用者の立場になり支援ができるよう、随時指導アドバイスをしている。			◎	

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や、目的を理解するために行っている。	/	/	/	事業所として外部評価に積極的に取り組んでおり、その結果や経過を運営推進会議等を利用して報告している。運営推進会議には家族が参加していないこともあり、家族への報告が十分にできていない。外部評価に関する家族等への周知方法について、工夫することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	ミーティングで課題を明確にし、職場の意識統一に向けて、勉強会に繋げている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	実現可能な目標設定をするようにし、努力している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議を活用している。また随時家族への報告も行っているが十分とはいえない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	事業所内での取り組みや成果については、随時確認をしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	各マニュアルを作成し周知している。スタッフが閲覧できるようにしている。	/	/	/	法人としても事業所としても、災害への備えは十分にできており、積極的に防災訓練も実施している。地域住民や消防署と十分に連携は取れているが、せっかく行っている訓練の実施や災害対策等の家族への周知がまだ十分ではないため、伝達方法の工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	日中や夜間帯を想定し訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	防火管理者により消火設備や避難経路の確認。非常食についても定期的に確認し、賞味期限が切れる前に交換をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議を利用し、訓練内容を説明して理解を得ている。また、グループ内で協力しあう体制も整備している。随時、消防署にも相談し指示を得ている。	x	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	消防や警察、グループ施設で共同訓練を実施している。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議を活用し、認知症への理解やケアについて情報提供をしている。認知症サポーター養成研修受講者もいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話での相談支援や入居申込時の相談、運営推進会議を利用して行っている。	/	○	○	事業所には、時々地域住民からの相談があるほか、中学生の職場体験ボランティアの受け入れ等、地域の各種機関との連携が取れている。管理者は事業所が地域のケア拠点としての機能を持つことに関して、今後の長期的な目標として捉えている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	x	できていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験については積極的に受け入れをしている。また依頼があれば個別に対応している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	研修や交流会があれば参加し、連携を図る事ができるように努めている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 2 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870900259
事業所名	グループホーム どんぐり
(ユニット名)	櫛
記入者(管理者)	
氏名	栗 育子
自己評価作成日	令和 2 年 6 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>自分らしく生きる楽しい暮らし</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の家族の参加については、玄関に掲示をしたり、参加していただけたらという声も参加には至っていない。 ・介護記録の書き方については、勉強会を行い以前に比べると、内容のある記載に変化しつつある。 ・家族にイベントに参加依頼をする事については、まだ十分に行うことができていない。個別には実施。施設新聞発行についても未実施である。 	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>母体法人は医療機関で、事業所の周辺には老人保健施設等の同法人の様々なサービス事業所や施設が隣接している。事業所を含む敷地は広々としており、人や車の出入りも多く活気が感じられる。事業所内では複数のユニットが合同でレクリエーションを楽しむことも多く、賑やかな雰囲気を利用者の表情も明るい。また、事業所には勤務歴の長い職員も多く、職員同士しっかりとコミュニケーションが取れている。職員一人ひとりの得意な業務をうまく配分することで、利用者との双方にとって快適な環境となるよう努めている。</p>
--------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時に、利用者や家族より希望や意向の確認をし把握している。入居後も、会話の時間を十分に確保し、入居者の思いを理解把握しスタッフ間で共有している。	◎	/	◎	職員は、日々の支援の中で利用者一人ひとりと丁寧に向き合い、思いや意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用者本人の生活歴や性格、家族からの情報等から、本人の気持ちや思いを引き出すようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族には、面会時には必ず、日々の生活状況等について伝えるようにしている。家族との会話の中で、本人の思いを引き出しケアに生かすことができている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	計画書に本人や家族の意向を記載し共有化している。計画書はいつでも閲覧できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員目線ではなく、利用者の立場になり物事を考えられるように意識付けをしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時には利用者や家族と面談をし確認をしている。入居後も、家族面会時には、十分に話しをする時間を確保し、情報を得られるようにしている。	/	/	◎	入居時に利用者本人や家族のほか、在宅時に利用していたサービス事業所、担当していた介護支援専門員等からも聞き取りを行い、これまでの暮らし等を把握している。また、入居後の家族等の面会時には、職員もゆとりと時間を取ってコミュニケーションを図るよう心掛けており、利用者の生活歴やこだわりなどの把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	今日出来た事、出来そうな事、興味のある事など、スタッフ間で情報共有し、ケアに繋げている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	細かい表情や、言葉等、日々の些細な変化に気づいた事は、スタッフ間で共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安定な時には、その行動のみを見るのではなく、要因について考えるようにし、スタッフ間で話し合い共有している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送り時の伝達や、個別記録表に日々の違った様子を記載し把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	利用者の気持ちやニーズについて考えるようにしている。家族にも状況を伝え話し合う機会を持っている。	/	/	◎	職員は日々の支援の中で、利用者の変化を共有したり、検討したりする場を設けている。あらかじめ日時を決めてカンファレンスを行う形ではなく、日頃から利用者の気になる点があれば、主任を中心に職員間でこまめに話し合い、より良いサービスの検討を深めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	理念にあるように、利用者が自分らしく暮らす事ができるような視点で考え検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明確にするように努力している。	/	/	/	

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人や家族のニーズに応じた介護計画作成を行っている。	/	/	/	各ユニットごとに配置している計画作成担当者・介護支援専門員が、利用者本人や家族の思いを反映して介護計画を作成しており、職員は利用者の日々の何気ない会話の中から思いが引き出せるよう留意している。日常的に職員から利用者についての気づきは主任に申し送られているため、職員の意見も活かした計画になっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族と利用者とは、頻繁に話す機会を持つようになっている。しかし、得た情報や意見がなかなか、介護計画に上手く生かす事ができない部分がある。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思疎通が困難な重度の利用者に対しては、家族からの聞き取りや、生活歴等から把握するようにし、介護計画に取り入れている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力体制は盛り込んで介護計画を作成しているが、地域住民については、盛り込んでいない場合が多い。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	全員が十分な把握はできていないが、意識して介護計画を確認し理解するように努めている。	/	/	/	介護計画の内容は職員間で共有しているものの、利用者の日々の支援につなげ、その記録を作成する段階にまではまだ至っていない。日々の暮らしの中で起こった出来事や利用者が話した事実をそのまま記録として書き残すことができるよう、職員間で勉強会を開催し、その後も主任が指導している。職員は、「利用者を丁寧に見ていないと細かな記録は書けない」と意識するようになってきている。話し合った内容も口頭で伝達されることが多く、記録に残すことが少ない。職員の個人差もあり課題も残っているが、前回の外部評価時に比べ、徐々に改善している様子が見られており、今後のサービスの向上に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	記録に関しては、介護計画に沿った記載があまりできていないが、職員間で共有するにはしている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別記録に記載している。スタッフにより差はあるが、誰が見ても分かり、支援に繋げられるように細かく記載するようにはしている。以前に比べると記載内容が詳しくなった。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別記録表に記載し共有するようにしているが、記録の内容にスタッフにより差ができています。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は6か月ごとに見直しを行っている。職員は日々の支援の中で気づきや新たな要望等を、日頃から主任や計画作成担当者へ個別に伝達しており、その都度検討して新しい計画に反映している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	現状を把握し確認と共有をするために、ミーティング時にスタッフと話し合いをしている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態が変化した際には、必ず家族に報告をし、家族や本人の意向を確認している。それにより、随時計画書に取り入れるようにしている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	定期的に見直しを行っている。ミーティングを行うようにはしているが、できない事もあり。緊急時には随時行っている。	/	/	△	毎月、事業所単位で勉強会を実施しているが、定期的に利用者のサービス等を話し合う会議は開催していない。緊急か否かにかかわらず利用者の気になること等があった場合には、その都度その場にいる職員と主任を中心に話し合いの時間を持っている。話し合った内容は主任から他の職員へ口頭で伝達するほか、申し送りノートで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	自発的な発言ができるように、話しやすい雰囲気作りをしている。また、人の意見に対して、否定的な発言にならないようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日時は、勤務表や業務の予定を決め、早めに決めるようにしている。休みのスタッフについては、可能であれば参加をお願いしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できないスタッフには、会議内で検討する内容を事前に提示し、意見を得ている。その意見を含め会議を行い、会議後は書面にて説明をし周知できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	入居者の状態については、ユニット単位で記録を毎日し、スタッフが閲覧できる状態にしている。スタッフ全員で共有するノートも活用している。	/	/	◎	申し送りノートを活用するほか、職員に口頭で伝達している。主任の配慮が行き届いており、職員への伝達不足は全く見られない。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	スタッフ全員が、出勤時に必ず確認をするノートに記載し周知できるようにしている。また、必要に応じて全員が周知できるまで毎日口頭で伝えたり、詰所内に掲示もしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	会話の中から把握し、叶えられるように努力している。				職員は利用者のやりたいことを最優先にして支援している。訪問日には利用者の様子や表情からも、自分のペースで穏やかに暮らしている様子が感じられた。着るものや食べたい物を利用者に選択してもらうだけでなく、職員から興味のあるものを予測して積極的に誘ってみるなど、利用者のやる気を引き出す支援にも努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	衣類や食べたい物、日々の暮らしのペース等、選択し自己決定できるように努めている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者の状態に応じて、話し掛け方や、質問の方法を変えたり、話しやすい雰囲気作りに努めている。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	起床、就寝については、利用者のペースに合わせるようにしている。入浴は、希望に応じて曜日やスタッフを変更したりする等対応をしている。排泄はも本人の行動や動作に合わせさせりげなく、誘導介助をするようにしている。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の言葉を復唱し、受容し受け入れられている安心感を得られるようにしている。個々に応じて、居室でじっくりと話しをする等対応をしている。			◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	いつもと何かが違う、という些細な変化に目を向けるようにし、変化がある場合はスタッフ間で共有している。利用者の気持ちは思いを想像しケアを行っている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や勉強会に参加し学ぶ機会を取り入れている。何事も利用者の立場になり考えることができるように努めている。	◎	◎	○	日々の支援の中で、トイレへの誘導など声掛けが不適切だと感じる場面があれば、すぐに主任から職員に声を掛けて指導するようにしている。扉の締め忘れや声の大きさなど、些細な事柄であっても丁寧に指導を行い、管理者は職員の意識を高めていきたいと考えている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者に対して敬意や尊敬の念を持つようにしている。職員によりばらつきはあるが、声掛けの方法やトーン等配慮のある声掛けを行っている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時には扉を閉め、排泄に関する言葉を控えるようにしている。入浴時には同様のスタッフが対応する等、可能な範囲で対応をしている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には必ずフックをし声を掛けて入るようにしている。また、居室内で眠っていたり、排泄や更衣をしていたりする時などは、一旦退室し時間をおいて訪室するようにしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修や勉強会に参加し意識付けを行い、職員全員が理解し厳守できるように努めている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お互いに協力しながら、生活をするという事を基本とし、できる事(掃除、洗濯、台所仕事)は行ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。役割を持ち頼られる存在であると感じてもらえるように努めている。				職員は利用者の関係性を十分に理解しており、利用者一人ひとりが快適に過ごすことができるよう日々配慮している。共用空間には、リビングの他にも廊下等にソファが配置されており、顔を合わせたくない利用者同士が適度に距離を置けるよう工夫している。より気持ちよく利用者が暮らしていけるよう居室やユニットの変更等も行われている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いの関係性を把握し、部屋の行き来や差入れの物のやり取り等、危険な事がない限り制限をしないで利用者達の思いに添えるよう努めている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	職員は、利用者の性格や生活歴、認知症の症状など細かく把握をするようにしている。また、利用者同士の関係性の変化にも注意し、利用者全員が関わりを持つ機会を持つようにしている。関係性に応じて、食堂の席や居室の移動も随時行っている。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが発生した際は、関わりのある方全員に個別に話しを聞くようにしている。そこから解決策を考え、お互いが納得し不安が解消できるようにしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入居時に、家族に可能な限り聞き取りをするようにしている。また、面会時に話しし得た情報も、随時スタッフ間で共有するようになっている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入居時に、家族に可能な限り聞き取りをするようにしている。また、利用者の話等から情報収集を行い、スタッフ間で共有するようになっている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族に、自宅への外出や、なじみの美容室に行く等の支援をお願いしている。また、友人との交流ができるように、グループ内の他施設を訪問している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食堂にはソファや観葉植物を置き、過ごし易い環境を提供している。関係性やその日の雰囲気に応じて、面会の場所を変え提供している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天候をみながら、施設外を散歩したり希望に応じて買い物と一緒に歩く等支援をしている。重度の方も、身体の負担を考えながら可能な限り、屋外に出る事ができるようにしている。しかし、業務上の都合により、なかなか希望に添う事ができない事もある。	○	○	○	重度の利用者も含め、希望に応じて日常的に近隣への散歩に出掛けている。職員が同行受診する際には、利用者と一緒にスーパーで買い物を楽しむことも多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方や、ボランティアへの働きかけは、十分にはできていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	近隣を散歩したり、玄関前で季節の植物を見たり、地域の秋祭りの太鼓台が来た時に見学する等、負担のかからない程度に行っている。			◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者の希望や意向を伝え、家族に外出の支援をお願いしている。また利用者の住んでいた地域の秋祭り見学に行ったり、地域を感じ思い出してもらえるようにしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会を行い理解するよう努めている。利用者の症状だけに目を向けず、背景にある要因を考えるよう意識付けをしている。				全体的に、職員から利用者へ手を出し過ぎず待つ支援ができているように見受けられたが、管理者はまだ職員の個人差があると感じている。気づいた場合は、管理者や主任から職員にその都度声を掛け指導している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下を防ぐために、今できている事に目を向け、続けられるように支援を行うようになっている。また利用者1人1人の状態を職員間で共有し、同じ支援ができるようにしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できること、できそうな事を探し一度行ってもらうようにしている。危険な事がない限り、極力利用者任せられるようにはしているが、職員によってケアにばらつきがある。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入居時に得た情報と、日々の会話や生活スタイルから把握できるように努めている。				複数のユニット合同でレクリエーションを楽しんでおり、大人数になるため賑やかで楽しそうである。食事の際には盛り付けや廊下の掃除を日課としている利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	役割持ち、人に頼られる存在であると感じてもらえるよう、個々に応じて作業提供を行っている。また生活歴や趣味から引き出した、楽しめる事も提供している。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方やボランティアへの働きかけは積極的にはできていない状況。敬老会には、本人の意向を踏まえ、可能であれば参加している。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	衣類の選択は、利用者の状態に応じて可能な方は行っている。本人の希望に応じて、髪留めをしたり、化粧もしている。				重度の利用者も含め、すべての利用者は季節に合った服装で過ごしており、整容の乱れも見られない。風のある日には夏場でも冬物の上着を羽織ろうとする利用者も多い。利用者自身の体感温度や室温にも配慮しながら、職員からさりげない声かけを行うなど、利用者の快適さを優先して支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者本人の希望や意向に添えるように対応をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	簡単に選択したり答えられるように、個々に応じて問いかけを変えたり、一緒に考えるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	気候や行事ごとに合わせて、可能な限り利用者と相談し決めるようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげない声かけをするようしている。他者の前では声を掛けない等、プライドを大切にするように対応をしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	利用者の希望に添えるようにしている。家族に依頼をしたり、家族が困難な時にはスタッフが送迎をしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	美容の際は、利用者が着ていた髪型や、配偶者の意向に添うようにしている。			◎	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は生きる力であり楽しみであると、意識し理解している。また、長い期間できる限り食物を、口から摂取できる事が大切である事を意識している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	◎	利用者の介護度が高く、調理をする事が難しくなっている。食べたい物(時期の物)を利用者に聞き調理する機会を作っている。食器拭きや、食材の処理等可能な事は一緒に行っている。				○		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	できることを、(食器拭き、下腿、机拭き)を依頼し行ってもらっている。作業をしてもらう事で、助かり感謝している事を必ず、伝えるようにしている。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時には、嗜好品や禁忌食については聞き取りをし周知している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節感を感じてもらえるように、旬の物を提供するようになっている。旬の食材は、可能な限り利用者に触れてもらい調理をするようにしている。また、昔懐かしい素朴な菓子等も作っている。				◎		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	嚥下の状態や体調に応じて、食事形態を検討をしている。元の食事形態に戻れる事を目標にケアを行い、随時再検討をしている。食欲がでるように、盛りつけをするように努めている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	居室の湯飲みや急須は自宅で使用している物を持参してもらうようにしている。食事時には施設で提供している。				○		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	介助が必要でない利用者の場合でも、同じテーブルに座り一緒に食事をしながら、食事摂取状態を観察したり、できない部分の介助を行っている。				◎		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事前には、今日のメニューや、食物や調理方法等、食事に関わる話しをしている。また、調理している際の香りや音を感じてもらえるようにしている。		◎		◎		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	随時栄養士と相談し、補助食品を取り入れたりする等対応をしている。水分管理が必要な方には、1日の摂取量の目安を決め、確実に摂取できるようにしている。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	栄養補助食品を取り入れたり、利用者の嗜好に合わせて、家族に食べられる物を依頼している。一回量が少ない方に関しては回数を増やしたり、しっかりと覚醒している時間帯に食べる事ができるようにしたり工夫をしている。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	グループ施設内の栄養士と栄養面や、利用者の好みを相談しメニューを決めている。毎月1回は同グループ内のスタッフで話し合う機会を持っている。				◎		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	台所は整理整頓、消毒を徹底し衛生面に気を付けている。また、食材は可能な限り新鮮なものを購入できるようにしている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性と重要性について、随時勉強会を行う事で、理解できるようにしている。				月2回、利用者は歯科医による訪問診療を受診している。治療だけでなく、利用者や職員は必要に応じて口腔ケアのアドバイスを受けられる環境である。職員は利用者の口腔内の状況を把握しており、日頃から適切な支援が行われている。また、情報を職員間での共有や家族等への報告にも活用できるよう、より詳細な記録の作成の検討もして欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	利用者1人1人の口腔内の状態を把握し、状態に応じて訪問歯科にて検診や治療を行っている。また歯科医からのアドバイスも受けている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科の医師に、相談し口腔ケアの方法について支援を受け実施している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の状態に応じて適切に洗浄し、義歯洗浄剤にて浸け置き消毒している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後には、利用者の状態に応じて、自分で可能な部分は行ってもらおうようにしている。出来ない部分の介助を行ったり、さりげなく洗い直しをしたりするようにしている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔ケアの介助時や、本人の訴え、食事摂取量等から、口腔内の状態を把握し、随時訪問歯科や、かかりつけ医にて診察を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会や、申し送りの際に排泄への理解を深めたり、排泄状況に変化があれば随時検討をしている。排泄は排泄ケアのみでなく、生活の質の向上に繋がるという事を、意識している。				トイレで排泄することを基本とし支援しており、利用者の状況に合わせて紙パンツやパッドなどを組み合わせて活用する工夫をしている。日々の支援の中で職員に気づきがあれば、その都度主任を中心に話し合いをしている。話し合われた内容は申し送りノートや主任から口頭で伝達し、職員間で共有している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘をしない支援をするために、原因や影響については理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄管理表に記録を毎日する事で、排泄リズムを把握するようにしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	可能な限りはトイレで排泄をするという事を基本的支援と考えている。身体や認知症の状態により、随時検討している。また、随時家族にも相談をし、検討をしている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	少しでも、気持ち良く排泄ができるように、随時改善策をスタッフ間で考えるようにしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄する場所や時間帯など、排泄管理表も参考に考え、スムーズに排泄できるように随時検討している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういった時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人の意向に添う事ができるように、可能な限り選択をしてもらうようにしている。また、随時相談があればスタッフはアドバイスをしている。おむつを使用する場合は、必ず家族にも話し本人の気持ちを考えようとしている。また、本人の好みの物を購入してもらう事もある。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者に応じて、サイズや種類を随時使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分量の管理や、マッサージ等を行っている。身体を動かす運動や、散歩も取り入れ便秘予防に努めている。また、水分には、お茶に甘みを足しゼリー状にした状態で提供している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	基本的には週2回程度で曜日は固定されている。しかし、利用者の意向や、体調に応じて随時曜日を変更している。また、ゆっくりと入浴する事ができるように、利用者のペースに合わせるようにしている。	◎		◎	基本的に曜日や時間帯を設定して順番に入浴することができる。職員は利用者からの希望があれば、柔軟に変更対応している。事業所には機械浴槽の設備が増築されたため、浴槽のまたぎが難しくなってきた利用者も浴槽につかれるようになるとともに、職員の負担も軽減にもつながっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	羞恥心やプライバシー保護に努めている。重度の方も、ゆっくりと安全に入浴ができるよう、機械浴槽を導入し、眺めの時間を確保している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	利用者が自分でできる事は、行ってもらおうようにしている。危険のないよう見守りを行ったり、十分でないところは、さりげなく手伝うようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	利用者の希望や意向を、一番に考えるようにしている。数日前や直近の出来等からも推測し利用者の事を理解するようにしている。時間をおいて声かけをしたり、入浴日を変更する対応をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認と、利用者の状態確認後に入浴の可否を決めている。入浴後や、水分補給を行い状態確認をしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	昼と夜の睡眠パターンの把握をしている。				1～2名程度、睡眠導入剤を服用中の利用者がいるが、職員は主治医と相談し、できるだけ減薬できるよう支援に努めている。寝つきの悪い利用者には職員が寄り添ってのんびりと会話を楽しんだり、飲み物を飲んだりしながら穏やかに過ごせるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠の方については、日中の過ごし方を考えたり、入眠前に温かい飲み物を提供しリラクセスできる雰囲気を作る等している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者の昼夜の状態や、精神面、活動性の状況を報告し、医師に指示を仰いでいる。なるべく、薬に頼らず日々のケアで改善できるように努めている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者は、自由し居室に行き休むことができる。また重度の方については、適度に臥床し休む事ができるように支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	公衆電話は自由に利用できるようにしている。自分でかけられない場合はスタッフが対応をしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	代筆をしたり、一緒に電話を掛けたり、スタッフが掛けた電話で話しをしたりする等の支援をしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	家族や友人の了承があれば、時間帯を配慮し本人の意向に添い電話をできるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙は利用者本人にその日に手渡している。代読したりする等個々に対応をしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	利用者の希望時には、電話受取りと対応の協力をお願いしている。遠方の家族については、手紙の依頼も行っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	金銭を自己管理し、自分で使う事は社会生活を送るに当たり大切な事である。また、本人の満足感や意欲向上に繋がる事を理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的に金銭を使う機会を作ることはできていない。外出イベントの際に外食をしたり、希望者と一緒に買い物に行ったりはしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	数名で買い物に行く場合は、事前に連絡をし行くようにしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	日頃の状態を観察し、利用者の状態に応じて家族と相談し、少ない金額を持参してもらう事もあ。また、自己管理している金銭で買い物の希望があればスタッフ同行で行き、支払いの支援をしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	金銭に関わる事は、しまい込みによる紛失の可能性もあるため、細かく家族と決めるようにしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的には金銭の預かりは行わない。家族が遠方でありやむを得ない場合は、出納簿を記入し随時確認とサインを受けている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	馴染みの美容室の希望があれば、スタッフが同行したりする等、可能な範囲でニーズに答えられるように対応をしている。	◎		◎	利用者の希望に応じて、馴染みの美容室や歯科等へ、職員と一緒に出掛けられるよう柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には観葉植物や、花を飾り小物等も置いて暖かみのある雰囲気を作るようにしている。玄関にはベンチも設置している。	◎	◎	◎	玄関にイスが数脚配置されており、利用者は座って会話が楽しめるよう工夫をしている。玄関には植物が飾られているほか、事業所の名称にちなんだ小物やベンチがあり、家庭的な雰囲気で作所者との会話が弾むきっかけにもなっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的な雰囲気という事ではない。しかし、利用者が食堂に集まり易い環境にはなっている。	◎	◎	◎	事業所内は全体的にシックな色調の空間となっており、家庭的で落ち着いた雰囲気である。リビングの大きな窓から海が見え、事業所内に風もよく抜けることから、とても心地よい共用空間となっている。掃除が行き届き、臭気も全く感じられず、雑誌や新聞などがさりげなく置かれている。エレベーター前のスペースには職員が活ける生花が飾られ、季節感を感じることができる。訪問日には食事やレクリエーションの時間帯以外でも、利用者の多くはリビングで穏やかに過ごす様子が見られた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	随時、換気を行い臭いには注意するようにしている。玄関近くにはオゾンを設置している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食堂の北側には窓があり、海の波の形により天候や風の強さを感じる事ができる。また、季節感を感じられるように、ひな人形を飾ったり、季節の花を生けたりしている。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファやベンチを置き、会話ができる環境を作っている。利用者個々に自分の場所があり、自然とそこに寄り自然と会話が始まる居場所がある。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレは居室入り口付近にあるが、トイレと居室扉を開める事で中は見えないようになっている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族の写真を飾ったり、自宅で使用していたソファを置いたりする等している。	◎		◎	居室には一通りの家具が備え付けになっているが、自宅からソファや棚など持ち込む利用者も多い。居室入り口には木製の表札を掲げている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室が分かりにくい方には、分かり易い物をドアノブに掛ける等し、居室の出入りが自分で行えるようにしている。また身体状態に応じて、手すりの取り付けや、居室内の家具の位置交換など随時行っている。				◎	自分の居室が分かりにくい利用者には、目印になるようぬいぐるみをさりげなく置き、分かりやすい工夫をしている。また、食事の盛り付けや片づけ、掃除などの役割を日常的に行う利用者もいる。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	混乱、不安、失敗があれば原因を考えるようにしている。同じ事が繰り返されないように、随時対応するようにしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうきは、すぐに取り掃除ができるような所に設置している。裁縫道具を持ち、スポンの握上げやゴムの入れ替えを行っている方もいる。食堂は、物が少なく、さりげない空間作りができているとは言えない。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	代表者や職員全員が、施錠をする事による、利用者の心理的な弊害について理解している。	◎	◎	◎	事業所の開設当初から鍵をかけないケアを実践しており、職員もお互いに声を掛け合い協力して支援ができています。研修は定期的に開催されており、職員は施錠することの弊害について理解を深めている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠をしない事による、離脱のリスクよりも自由な暮らしの選択の理解を家族に図っている。しかし、利用者の精神、行動面の状況に応じて、一時的に施錠する事もある。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外に出て日光浴をする等、自由に玄関を出ることができるように玄関の施錠は日中はしていない。しかし、離脱のリスクも高い事から、近隣やグループ施設にも協力を得ている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者個々の病歴や注意事項については、共有のファイルやノートに記載している。また随時、申し送りでも共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日、バイタル測定を実施している。記録に残し些細な変化に注意し発見できるようにしている。変化やサインを介護記録に記載するようにはしているが、個々によりばらつきがある。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療施設が隣接をし、定期的に看護師が来ている。状態に変化があれば看護師と医師に速やかに報告をし、適切な処置を受ける事ができている。かかりつけ医には、書面にて状態報告をするようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居時に希望される医療機関を確認し対応をしている。入居後も状態に応じて、家族や本人の意向を確認し対応をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	スタッフが受診に同行し主治医に状態を詳しく説明したり、書面で伝える等、関係の構築を図っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院の仕方については、事前に家族と相談し決めている。受診後の結果についても、スタッフが報告を受けるようにしている。スタッフ同行で受診した際は、その日のうちに家族に必ず報告をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	日頃の状態や、性格、精神面の状態を細かく情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中は、病院の相談員と細かく連絡を取り情報交換を行っている。退院に向けての支援も、家族の意向を踏まえ連携して行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	外部の研修会に参加し交流を図り、顔見知りになる事で関係構築できるように努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護師には、随時細かく情報を伝え相談をしている。医師にも状態に応じて直接相談をする事もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	併設医療機関で24時間、連絡相談できる体制の確保ができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者の状態観察を行い、随時看護師や医師の報告をし指示を受けられる体制を確保し、早期発見と治療につながっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の情報をファイリングし閲覧ができるようにして把握している。薬の変更がある場合は、専用のノートに記載するようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	氏名、用法、日付を確認しペンで必ず印を入れる。配薬チェック表にも印を入れ、名前を呼びながら配薬をするようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	状態の変化の注意し、変化があれば内服薬の影響も考えるようにしている。看護師や医師に相談し指示を得るようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬の服用状況や、服用後の変化等を記録し、随時家族、医師、看護師に報告をしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に終末期の意思確認を書面で行っている。またその時の状態により意思の変化がある事を踏まえ、随時確認をするようにしている。	/	/	/	現状では事業所で看取りは実施していないが、利用者や家族、主治医とも相談を重ね、職員はできる限り事業所で過ごしてもらえよう支援している。医療的な処置が必要な状況になった利用者の対応は困難な面も多くなって来るが、身体的に重度化した利用者には、機械浴槽を新しく増築したこともあり、職員の対応が可能になっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人、家族、職員、医師間で随時話し合いを共有する事ができている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の不安な思いを理解している。職員の力量や施設の現状を踏まえ、どこまでの支援が可能かを判断をしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	施設として出来る事、できない事。医療が出来る事等、医療と介護を明確にし、協力して支援する事を伝え理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関とは密に連携を取り、家族とも共有している。家族の意向や気持ちにも配慮しチーム支援ができるように努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	対話の機会を持つようにしている。利用者の状態だけでなく、家族の不安や心配、悲しみを受けとめ、家族の変化する気持ちに寄り添えるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に研修や勉強会に参加し学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症の勉強会やミーティング、模擬訓練も実施している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新の情報を収集できるようにしている。グループ施設内でSNSを活用し共有できるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市町村からの情報や、インターネットを通じて情報収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	一動作一洗いの徹底。マスクの着用。次亜塩素酸水や強酸水による消毒の徹底を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者のマイナ面に重点をおかず、プラス面を主として話をするようにしている。共有、共感し施設との繋がりを家族にも感じてもらえるようにしている。	/	/	/	定期的に洗濯物を家族が取りに来ている利用者もあり、家族等の面会は多い。面会時には積極的に職員から話す時間を設け、日頃の利用者の様子を報告したり、家族の要望を確認したりしている。運営推進会議等の行事案内を掲示しているが、管理者は周知が十分ではないと感じている。先日、エレベーター内に行事案内を掲示する工夫を試みたところ、家族からの反応が大きく、今後の周知方法の工夫のヒントになった。また、以前から課題にあがっていた事業所の便りや新聞といった形式での家族等への報告方法はまだ検討中であり、どのような形のものか職員間で模索している。職員と家族とのコミュニケーションは上手く取れているため、事業所の運営上の事柄や出来事について分かりやすく報告できる工夫を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時にはスタッフ全員が声を掛けるようにし、利用者の事以外に世間話をする等雰囲気作りをしている。いつ、誰が来て来やすい環境作りを努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	イベント時には家族に声掛けを行うが、なかなか参加には繋がらない状況。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	個々に応じて、画像や近況報告を記載した「たより」を作成し、遠方のご家族に送付している。しかし、全利用者には行うことができていない。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族からの質問や、不安なことについては随時答えるようにしている。また、意見箱の設置をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	入居時の聞き取りを基本とし、入居後は家族との関わり方から関係性を把握するようにしている。1人1人家族との関係性は違いがあり、その方に応じ構築できるよう支援をしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	来訪時の説明のみであり、利用者全員に伝わり理解を得ている状況ではない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	家族同士の交流の機会はまだあまり持てていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時にリスク説明を行い同意を得ている。状態の変化に伴い、随時家族にも相談し対応を決めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には、必ず日々の状態を説明するようにしている。また、家族が相談しやすい関係性の構築に努めている。転倒等の事故があれば当日に必ず連絡をする等、積極的に行っている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には文書を具体的に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居時には、しっかりと説明を行い家族や本人の意向を確認をしている。納得した退居ができるように、退居先施設や在宅CMと連携を取る事ができている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文章にて詳しい説明をし、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を活用している。	/	◎	/	日常的に散歩の際に近隣住民と挨拶を交わす程度の交流に留まっている。運営推進会議の場で地域住民等から地域の行事に誘ってもらうことも多く、管理者は、「今後さらに地域との関係性を深めていけるのではないか」と感じている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	近隣住民の方には挨拶をするようにしている。利用者との散歩の際に会話をする機会もある。地域の敬老会に参加もしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	施設周辺に住宅が少ないが、温かい気持ちで見守ってくれていると感じる。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	運営推進会議の参加はあるが、地域の方が施設に来られる事は殆どない状況。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	住宅や住民が少ない事もあり、あまり住民の方と接する事は少ない。しかし、頻りに会う方とは、世間話をしたり、育てている柑橘類をいただいたり良い関係ができていく。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	グループ内施設で共同で、幼稚園の慰問を受けたりしている。施設単独での受け入れや働きかけは十分ではない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	参加の意向がある方や、身体の状態でも可能な方は、敬老会に参加をしている。地域からの夏祭りの誘いもいただくが、参加には繋がっていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くのスーパーに買い物に行ったり、近隣を散歩したりする等、地域に出るという事を意識している。スタッフ、利用者共に顔なじみの関係が構築できるように努力している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域住民の方の参加はある。家族には、掲示板を利用したり、個別にも声掛けを行い依頼するが、参加には至っていない。	×	/	△	定期的に運営推進会議を開催し、参加者に事業所での様子を報告したり、地域の行事に誘ってもらったりするなどの交流をしている。以前からの課題であった会議への家族の参加は、まだ改善ができていないものの、新しい利用者の家族に対して積極的に声掛けを行っているところである。また、運営推進会議の報告方法について、参加していない家族へ向けてより参加をアピールできるような工夫を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の状況や活動、外部評価や実地指導等の内容や、目標等について随時報告をしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	地域住民の方の貴重な意見は取り入れるようにし、状況報告も行っている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	年間で日時を設定しており、時間や日程の配慮については十分ではない。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	口頭で報告をしたり、希望に応じて書面を閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎日、朝礼で理念を復唱している。毎日復唱する事で共通認識を持つ事ができるようにしている。また、理念に添った支援ができるよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関やユニットに理念を掲示し、またスタッフのユニホームにも理念を記載している。入居時には詳しく理念を説明するようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修や勉強会に、積極的に参加できるようにしている。				法人内でスポーツ大会やマラソン部などの活動を行っており、管理者は積極的に職員のストレスを軽減するための環境づくりや取組みに努めている。職員から事業所内の人間関係がとても良く、離職も少ない様子を聞き取ることができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務を通して勉強をしたり、技術取得ができるよう取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や、勤務状態を把握し、定期的に評価をしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域主催の研修等や、介護支援専門員の研修会に参加できるようにしている。同業者と交流し、刺激を受け、情報交換する事で意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	社員旅行や、グループ内でのスポーツ大会、マラソン部の参加等、発散できる環境作りに努めている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	内外部の研修に参加し勉強している。				定期的に虐待防止などの勉強会も実施され、職員の学びの場が確保されている。事業所内で気になることがあれば、主任を中心にお互いに声を掛け合える環境があり、主任も職員の不適切なケアを見逃すことがないよう十分に留意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日、朝礼や申し送り内で話し合う機会を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	不適切なケアと少しでも思われる状況が発生した場合、すぐに主任や管理者に報告をする体制を取っている。時間を置かず、すぐに職員間で話しをし敏速に対応できるようにしている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員の態度や言葉に常に目を向けるようにしている。状況に応じて直接話しをしストレスや疲労が蓄積しないようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内外部研修にて学び、理解する事ができている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	委員会にて検討したり、朝礼の後に議題に取り上げて話しをしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族には、身体拘束をしないケアについて、弊害も含めしっかりと説明をし理解を得るようにしている。それに代替えとなる支援を見つけ提案をしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内外研修で学び理解している。成年後見人制度については、今までの事例がない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの相談があれば対応するようにしている。玄関にパンフレットを設置している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターやケアマネージャー等、相談できる関係性の構築はできている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時のマニュアル作成は行っている。また、消防から直接指導を受ける機会も持ち、周知できるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	消防からの救急隊による指導を定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	なぜ事故が起きたのか、なぜ事故が起きそうになったのか等を職員間で考えるようにしている。ヒヤリハットの時点で検討する事で事故に繋がらないようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の状態を報告共有し、リスクを推測し回避に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し周知している。苦情対応については、主任が主に対応する事としている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	相談、苦情マニュアルに沿い対応し迅速に行う事ができるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しては、対応と改善策を明確に提示するようにしている。家族や利用者との関係がマイナスの方向にならないように、対話をすすめるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	話しやすい環境や雰囲気作りを努めて、意見の内容により、個別に聞いたりする等対応を変えている。			◎	日頃から利用者には職員が個別に話を聞くように支援している。面会時には家族に対してもしっかりと時間を取り話を聞くよう努めている。家族からの要望はあまり出されないが、事業所としてできる限り要望に応えられるよう工夫して対応している。また、職員は気軽に主任に相談できる環境があり、相談内容によって主任から管理者につながることもできる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族来訪時には、話しや相談しやすい環境を提供している。しっかりと対話をするようにし、そこから要望を引き出す事ができるように努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初は行っている。入居後は、随時説明している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場に足を運び、意見や要望を聞くようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員1人1人の意見を聞く機会を持っている。利用者の事を思い、利用者の立場になり支援ができるよう、随時指導アドバイスをしている。			◎	

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や、目的を理解するために行っている。	/	/	/	事業所として外部評価に積極的に取り組んでおり、その結果や経過を運営推進会議等を利用して報告している。運営推進会議には家族が参加していないこともあり、家族への報告が十分にできていない。外部評価に関する家族等への周知方法について、工夫することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	ミーティングで課題を明確にし、職場の意識統一に向けて、勉強会に繋げている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	実現可能な目標設定をするようにし、努力している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議を活用している。また随時家族への報告も行っているが十分とはいえない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	事業所内での取り組みや成果については、随時確認をしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	各マニュアルを作成し周知している。スタッフが閲覧できるようにしている。	/	/	/	法人としても事業所としても、災害への備えは十分にできており、積極的に防災訓練も実施している。地域住民や消防署と十分に連携は取れているが、せっかく行っている訓練の実施や災害対策等の家族への周知がまだ十分ではないため、伝達方法の工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	日中や夜間帯を想定し訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	防火管理者により消火設備や避難経路の確認。非常食についても定期的に確認し、賞味期限が切れる前に交換をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議を利用し、訓練内容を説明して理解を得ている。また、グループ内で協力しあう体制も整備している。随時、消防署にも相談し指示を得ている。	x	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	消防や警察、グループ施設で共同訓練を実施している。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議を活用し、認知症への理解やケアについて情報提供をしている。認知症サポーター養成研修受講者もいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話での相談支援や入居申込時の相談、運営推進会議を利用して行っている。	/	○	○	事業所には、時々地域住民からの相談があるほか、中学生の職場体験ボランティアの受け入れ等、地域の各種機関との連携が取れている。管理者は事業所が地域のケア拠点としての機能を持つことに関して、今後の長期的な目標として捉えている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	x	できていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験については積極的に受け入れをしている。また依頼があれば個別に対応をしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	研修や交流会があれば参加し、連携を図る事ができるように努めている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 2 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 18名	(依頼数) 27名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870900259
事業所名	グループホーム どんぐり
(ユニット名)	檜
記入者(管理者)	
氏名	栗 育子
自己評価作成日	令和 2 年 6 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>自分らしく生きる楽しい暮らし</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・運営推進会議の家族の参加については、玄関に掲示をしたり、参加していただけたらいい方に、声を掛けるも参加には至っていない。 ・介護記録の書き方については、勉強会を行い以前に比べると、内容のある記載に変化しつつある。 ・家族にイベントに参加依頼をする事については、まだ十分に行うことができていない。個別には実施。施設新聞発行についても未実施である。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>母体法人は医療機関で、事業所の周辺には老人保健施設等の同法人の様々なサービス事業所や施設が隣接している。事業所を含む敷地は広々としており、人や車の出入りも多く活気が感じられる。事業所内では複数のユニットが合同でレクリエーションを楽しむことも多く、賑やかな雰囲気を利用者の表情も明るい。また、事業所には勤務歴の長い職員も多く、職員同士しっかりとコミュニケーションが取れている。職員一人ひとりの得意な業務をうまく配分することで、利用者と職員の双方にとって快適な環境となるよう努めている。</p>
--------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	入居時に、利用者や家族より希望や意向の確認をし把握している。入居後も、会話の時間を十分に確保し、入居者の思いを理解把握しスタッフ間で共有している。	◎		◎	職員は、日々の支援の中で利用者一人ひとりと丁寧に向き合い、思いや意向の把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	利用者本人の生活歴や性格、家族からの情報等から、本人の気持ちや思いを引き出すようにしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	家族には、面会時には必ず、日々の生活状況等について伝えるようにしている。家族との会話の中で、本人の思いを引き出しケアに生かすことができている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	計画書に本人や家族の意向を記載し共有化している。計画書はいつでも閲覧できるようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員目線ではなく、利用者の立場になり物事を考えられるように意識付けをしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時には利用者や家族と面談をし確認をしている。入居後も、家族面会時には、十分に話しをする時間を確保し、情報を得られるようにしている。			◎	入居時に利用者本人や家族のほか、在宅時に利用していたサービス事業所、担当していた介護支援専門員等からも聞き取りを行い、これまでの暮らし等を把握している。また、入居後の家族等の面会時には、職員もゆとりと時間を取ってコミュニケーションを図るよう心掛けており、利用者の生活歴やこだわりなどの把握に努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	今日出来た事、出来そうな事、興味のある事など、スタッフ間で情報共有し、ケアに繋げている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	細かい表情や、言葉等、日々の些細な変化に気づいた事は、スタッフ間で共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	不安定な時には、その行動のみを見るのではなく、要因について考えるようにし、スタッフ間で話し合い共有している。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	申し送り時の伝達や、個別記録表に日々の違った様子を記載し把握している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	利用者の気持ちやニーズについて考えるようにしている。家族にも状況を伝え話し合う機会を持っている。			◎	職員は日々の支援の中で、利用者の変化を共有したり、検討したりする場を設けている。あらかじめ日時を決めてカンファレンスを行う形ではなく、日頃から利用者の気になる点があれば、主任を中心に職員間でこまめに話し合い、より良いサービスの検討を深めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	理念にあるように、利用者が自分らしく暮らす事ができるような視点で考え検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間で話し合い、課題を明確にするように努力している。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人や家族のニーズに応じた介護計画作成を、心がけている。				各ユニットごとに配置している計画作成担当者・介護支援専門員が、利用者本人や家族の思いを反映して介護計画を作成しており、職員は利用者の日々の何気ない会話の中から思いが引き出せるよう留意している。日常的に職員から利用者についての気づきは主任に申し送られているため、職員の意見も活かした計画になっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族と利用者とは、頻繁に話す機会を持つようになっている。しかし、得た情報や意見がなかなか、介護計画に上手く生かす事ができない部分がある。	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思疎通が困難な重度の利用者に対しては、家族からの聞き取りや、生活歴等から把握するようにし、介護計画に取り入れている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の協力体制は盛り込んで介護計画を作成しているが、地域住民については、盛り込んでいない場合が多い。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	全員が十分な把握はできていないが、意識して介護計画を確認し理解するように努めている。				介護計画の内容は職員間で共有しているものの、利用者の日々の支援につなげ、その記録を作成する段階にまではまだ至っていない。日々の暮らしの中で起こった出来事や利用者が話した事実をそのまま記録として書き残すことができるよう、職員間で勉強会を開催し、その後も主任が指導している。職員は、「利用者を丁寧に見ていないと細かな記録は書けない」と意識するようになってきている。話し合った内容も口頭で伝達されることが多く、記録に残すことが少ない。職員の個人差もあり課題も残っているが、前回の外部評価時に比べ、徐々に改善している様子が見られており、今後のサービスの向上に期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	記録に関しては、介護計画に沿った記載があまりできていないが、職員間で共有するようにはしている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別記録に記載し残すようにはしている。スタッフにより差はあるが、誰が見ても分かり、支援に繋がられるように細かく記載するようにはしている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	個別記録表に記載し共有するようにはしているが、記録の内容にスタッフにより差ができています。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	定期的に見直しを行っている。				介護計画は6か月ごとに見直しを行っている。職員は日々の支援の中で気づきや新たな要望等を、日頃から主任や計画作成担当者に個別に伝達しており、その都度検討して新しい計画に反映している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	現状を把握し確認と共有をするために、ミーティング時にスタッフと話し合いをしている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態が変化した際には、必ず家族に報告をし、家族や本人の意向を確認している。それにより、随時計画書に取り入れるようにはしている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	△	定期的に見直しを行っている。ミーティングを行うようにはしているが、できない事もあり緊急時には随時行っている。				毎月、事業所単位で勉強会を実施しているが、定期的に利用者のサービス等を話し合う会議は開催していない。緊急か否かにかかわらず利用者の気になること等があった場合には、その都度その場にいる職員と主任を中心に話し合いの時間を持っている。話し合った内容は主任から他の職員へ口頭で伝達するほか、申し送りノートで共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	自発的な発言ができるように、話しやすい雰囲気作りをしている。また、人の意見に対して、否定的な発言にならないようにはしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日時は、勤務表や業務の予定を決め、早めに決めるようにはしている。休みのスタッフについては、可能であれば参加をお願いしている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	参加できないスタッフには、会議内で検討する内容を事前に提示し、意見を得ている。その意見を含め会議を行い、会議後は書面にて説明を周知できるようにしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	入居者の状態については、ユニット単位で記録を毎日し、スタッフが閲覧できる状態にしている。スタッフ全員で共有するノートも活用している。				申し送りノートを活用するほか、職員に口頭で伝達している。主任の配慮が行き届いており、職員への伝達不足は全く見られない。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにはしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	スタッフ全員が、出勤時に必ず確認をするノートに記載し周知できるようにしている。また、必要に応じて全員が周知できるまで毎日口頭で伝えたり、詰所内に掲示もしている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	会話の中から把握し、叶えられるように努力している。				職員は利用者のやりたいことを最優先にして支援している。訪問日には利用者の様子や表情からも、自分のペースで穏やかに暮らしている様子が感じられた。着るものや食べたい物を利用者に選択してもらうだけでなく、職員から興味のあるものを予測して積極的に誘ってみるなど、利用者のやる気を引き出す支援にも努めている。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	衣類や食べたい物、日々の暮らしのペース等、選択し自己決定できるように努めている。			◎		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者の状態に応じて、話し掛け方や、質問の方法を変えたり、話しやすい雰囲気作りに努めている。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	起床、就寝については、利用者のペースに合わせるようにしている。入浴は、希望に応じて曜日やスタッフを変更したりする等対応をしている。排泄はも本人の行動や動作に合わせさりげなく、誘導介助をするようにしている。					
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者の言葉を復唱し、受容し受け入れられている安心感を得られるようにしている。個々に応じて、居室でじっくりと話しをする等対応をしている。					◎
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	いつもと何かが違う、という些細な変化に目を向けるようにし、変化がある場合はスタッフ間で共有している。利用者の気持ちは思いを想像しケアを行っている。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や勉強会に参加し学ぶ機会を取り入れている。何事も利用者の立場になり考えられることができるように努めている。		◎	◎	○	日々の支援の中で、トイレへの誘導など声掛けが不適切だと感じる場面があれば、すぐに主任から職員に声を掛けて指導するようにしている。扉の締め忘れや声の大きさなど、些細な事柄であっても丁寧に指導を行い、管理者は職員の意識を高めていきたいと考えている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者に敬意や尊敬の念を持つようにしている。職員によりばらつきはあるが、声掛けの方法やトーン等配慮のある声掛けを行っている。				○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時には扉を閉め、排泄に関する言葉を控えるようにしている。入浴時には同様のスタッフが対応する等、可能な範囲で対応をしている。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には必ずフックをし声を掛けて入るようにしている。また、居室内で眠っていたり、排泄や更衣をしていたりする時などは、一旦退室し時間をおいて訪室するようにしている。				○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	研修や勉強会に参加し意識付けを行い、職員全員が理解し厳守できるように努めている。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	お互いに協力しながら、生活をするという事を基本とし、できる事(掃除、洗濯、台所仕事)は行ってもらい、感謝の気持ちを伝えている。役割を持ち頼られる存在であると感じてもらえるように努めている。				職員は利用者の関係性を十分に理解しており、利用者一人ひとりが快適に過ごすことができるよう日々配慮している。共用空間には、リビングの他にも廊下等にソファが配置されており、顔を合わせたくない利用者同士が適度に距離を置けるよう工夫している。より気持ちよく利用者が暮らしていけるよう居室やユニットの変更等も行われている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いの関係性を把握し、部屋の行き来や差入れの物のやり取り等、危険な事がない限り制限をしないで利用者達の思いに添えるよう努めている。					◎
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	職員は、利用者の性格や生活歴、認知症の症状など細かく把握をするようにしている。また、利用者同士の関係性の変化にも注意し、利用者全員が関わりを持つ機会を持つようにしている。関係性に応じて、食堂の席や居室の移動も随時行っている。					
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが発生した際は、関わりのある方全員に個別に話しを聞くようにしている。そこから解決策を考え、お互いが納得し不安が解消できるようにしている。					

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	入居時に、家族に可能な限り聞き取りをするようにしている。また、面会時に話しし得た情報も、随時スタッフ間で共有するようになっている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	◎	入居時に、家族に可能な限り聞き取りをするようにしている。また、利用者の話等から情報収集を行い、スタッフ間で共有するようになっている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族に、自宅への外出や、なじみの美容室に行く等の支援をお願いしている。また、友人との交流ができるように、グループ内の他施設を訪問している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	食堂にはソファや観葉植物を置き、過ごし易い環境を提供している。関係性やその日の雰囲気に応じて、面会の場所を変え提供している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	天候をみながら、施設外を散歩したり希望に応じて買い物と一緒に歩く等支援をしている。重度の方も、身体の負担を考えながら可能な限り、屋外に出る事ができるようにしている。しかし、業務上の都合により、なかなか希望に添う事ができない事もある。	○	○	○	重度の利用者も含め、希望に応じて日常的に近隣への散歩に出掛けている。職員が同行受診する際には、利用者と一緒にスーパーで買い物を楽しむことも多い。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方や、ボランティアへの働きかけは、十分にはできていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	近隣を散歩したり、玄関前で季節の植物を見たり、地域の秋祭りの太鼓台が来た時に見学する等、負担のかからない程度に行っている。	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者の希望や意向を伝え、家族に外出の支援をお願いしている。また利用者の住んでいた地域の秋祭り見学に行ったり、地域を感じ思い出してもらえるようにしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会を行い理解するよう努めている。利用者の症状だけに目を向けず、背景にある要因を考えるよう意識付けをしている。	/	/	/	全体的に、職員から利用者へ手を出し過ぎず待つ支援ができているように見受けられたが、管理者はまだ職員の個人差があると感じている。気づいた場合は、管理者や主任から職員にその都度声を掛け指導している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	機能低下を防ぐために、今できている事に目を向け、続けられるように支援を行うようになっている。また利用者1人1人の状態を職員間で共有し、同じ支援ができるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	できること、できそうな事を探し一度行ってもらうようにしている。危険な事がない限り、極力利用者任せにするにはしているが、職員によってケアにばらつきがある。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	入居時に得た情報と、日々の会話や生活スタイルから把握できるように努めている。	/	/	/	複数のユニット合同でレクリエーションを楽しんでおり、大人数になるため賑やかで楽しそうである。食事の際には盛り付けや廊下の掃除を日課としている利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	生活歴から把握すること、普段の生活から聞き取った情報から作業提供等を行っている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の方やボランティアへの働きかけは積極的にはできていない状況。敬老会には、本人の意向を踏まえ、可能であれば参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	衣類の選択は、利用者の状態に応じて可能な方は行っている。帽子好きの方には被ってもらったり、定期的にスタッフがマニキュアを塗ったり個々に応じて行っている。				重度の利用者も含め、すべての利用者は季節に合った服装で過ごしており、整容の乱れも見られない。風のある日には夏場でも冬物の上着を羽織ろうとする利用者も多い。利用者自身の体感温度や室温にも配慮しながら、職員からさりげない声かけを行うなど、利用者の快適さを優先して支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者本人の希望や意向に添えるように対応をしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	簡単に選択したり答えられるように、個々に応じて問いかけを変えたり、一緒に考えるようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	気候や行事ごとに合わせて、可能な限り利用者と相談し決めるようにしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげない声かけをするようしている。他者の前では声を掛けない等、プライドを大切にするように対応をしている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	利用者の希望に添えるようにしている。家族に依頼をしたり、家族が困難な時にはスタッフが送迎をしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	美容の際は、利用者が着ていた髪型や、配偶者の意向に添うようにしている。			◎	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は生きる力であり楽しみであると、意識し理解している。また、長い期間できる限り食物を、口から摂取できる事が大切である事を意識している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。			◎	利用者の介護度が高く、調理をする事が難しくなっている。食べたい物(時期の物)を利用者に聞き調理をする機会を作っている。食器拭きや簡単な調理は一緒に行っている。			○	
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。			◎	できることを、(食器拭き、下膳、机拭き)を依頼し行ってもらっている。作業をしてもらう事で、助かり感謝している事を必ず、伝えるようにしている。				
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。			◎	入居時には、嗜好品や禁忌食については聞き取りをし周知している。				
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。			◎	季節感を感じてもらえるように、旬の物を提供するようになっている。旬の食材は、可能な限り利用者に触れてもらい調理をするようになっている。また、昔懐かしい素朴な菓子等も作っている。			◎	
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)			◎	嚥下の状態や体調に応じて、食事形態を検討をしている。元の食事形態に戻れる事を目標にケアを行い、随時再検討をしている。食欲がでるように、盛りつけをするように努めている。				
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。			○	居室の湯飲みや急須は自宅で使用している物を持参してもらうようにしている。食事時には施設で提供している。			○	
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。			◎	介助が必要でない利用者の場合でも、同じテーブルに座り一緒に食事をしながら、食事摂取状態を観察したり、できない部分の介助を行っている。			◎	
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。			◎	食事前には、今日のメニューや、食物や調理方法等、食事に関わる話しをしている。また、調理している際の香りや音を感じてもらえるようにしている。	◎		◎	
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。			◎	随時栄養士と相談し、補助食品を取り入れたりする等対応をしている。水分管理が必要な方には、1日の摂取量の目安を決め、確実に摂取できるようにしている。				
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。			◎	栄養補助食品を取り入れたり、利用者の嗜好に合わせて、家族に食べられる物を依頼している。一回量が少ない方に関しては回数を増やしたり、しっかりと覚醒している時間帯に食べる事ができるようにしたり工夫をしている。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。			◎	グループ施設内の栄養士と栄養面や、利用者の好みを相談しメニューを決めている。毎月1回は同グループ内のスタッフで話し合う機会を持っている。			◎	
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。			○	台所は整理整頓、消毒を徹底し衛生面に気を付けている。また、食材は可能な限り新鮮なものを購入できるようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口腔ケアの必要性と重要性について、随時勉強会を行う事で、理解できるようにしている。	/	/	/	月2回、利用者は歯科医による訪問診療を受診している。治療だけではなく、利用者や職員は必要に応じて口腔ケアのアドバイスを受けられる環境である。職員は利用者の口腔内の状況を把握しており、日頃から適切な支援が行われている。また、情報を職員間での共有や家族等への報告にも活用できるよう、より詳細な記録の作成の検討もして欲しい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	利用者1人1人の口腔内の状態を把握し、状態に応じて訪問歯科にて検診や治療を行っている。また歯科医からのアドバイスも受けている。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科の医師に、相談し口腔ケアの方法について支援を受け実施している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯の状態に応じて適切に洗浄し、義歯洗浄剤にて浸け置き消毒している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	食後には、利用者の状態に応じて、自分で可能な部分は行ってもらおうようにしている。出来ない部分の介助を行ったり、さりげなく洗い直しをしたりするようにしている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔ケアの介助時や、本人の訴え、食事摂取量等から、口腔内の状態を把握し、随時訪問歯科や、かかりつけ医にて診察を受けている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	勉強会や、申し送りの際に排泄への理解を深めたり、排泄状況に変化があれば随時検討している。排泄は排泄ケアのみでなく、生活の質の向上に繋がるという事を、意識している。	/	/	/	トイレで排泄することを基本とし支援しており、利用者の状況に合わせて紙パンツやパッドなどを組み合わせて活用する工夫をしている。日々の支援の中で職員に気づきがあれば、その都度主任を中心に話し合いをしている。話し合われた内容は申し送りノートや主任から口頭で伝達し、職員間で共有している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘をしない支援をするために、原因や影響については理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄管理表に記録を毎日する事で、排泄リズムを把握するようにしている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	可能な限りはトイレで排泄をするという事を基本的支援と考えている。身体や認知症の状態により、随時検討している。また、随時家族にも相談をし、検討をしている。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	少しでも、気持ち良く排泄ができるように、随時改善策をスタッフ間で考えるようにしている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄する場所や時間帯など、排泄管理表も参考に考え、スムーズに排泄できるように随時検討している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	本人の意向に添う事ができるように、可能な限り選択をってもらうようにしている。また、随時相談があればスタッフはアドバイスをしている。おむつを使用する場合は、必ず家族にも話し本人の気持ちを含め考えるようにしている。また、本人の好みの物を購入してもらう事もある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	利用者に応じて、サイズや種類を随時使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	水分量の管理や、マッサージ等を行っている。身体を動かす運動や、散歩も取り入れ便秘予防に努めている。また、水分には、お茶に甘みを足しゼリー状にした状態で提供している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	基本的には週2回程度で曜日は固定されている。しかし、利用者の意向や、体調に応じて随時曜日を変更している。また、ゆっくりと入浴する事ができるように、利用者のペースに合わせるようにしている。	◎	/	◎	基本的に曜日や時間帯を設定して順番に入浴することができる。職員は利用者からの希望があれば、柔軟に変更対応している。事業所には機械浴槽の設備が増築されたため、浴槽のまたぎが難しくなってきた利用者も浴槽につかれるようになるとともに、職員の負担も軽減にもつながっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	羞恥心やプライバシー保護に努め、必要以上の介助はしないようにしている。1人でゆっくりと入浴できるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	利用者が自分でできる事は、行ってもらおうようにしている。危険のないよう見守りを行ったり、十分でないところは、さりげなく手伝うようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	利用者の希望や意向を、一番に考えるようにしている。数日前や直近の出来等からも推測し利用者の事を理解するようにしている。時間をおいて声かけをしたり、入浴日を変更する対応をしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタルの確認と、利用者の状態確認後に入浴の可否を決めている。入浴後や、水分補給を行い状態確認をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	昼と夜の睡眠パターンの把握をしている。				1～2名程度、睡眠導入剤を服用中の利用者がいるが、職員は主治医と相談し、できるだけ減薬できるよう支援に努めている。寝つきの悪い利用者には職員が寄り添ってのんびりと会話を楽しんだり、飲み物を飲んだりしながら穏やかに過ごせるよう支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	不眠の方については、日中の過ごし方を考えたり、入眠前に温かい飲み物を提供しリラックスできる雰囲気を作る等している。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者の昼夜の状態や、精神面、活動性の状況を報告し、医師に指示を仰いでいる。なるべく、薬に頼らず日々のケアで改善できるように努めている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者は、自由し居室に行き休むことができる。また重度の方については、適度に臥床し休む事ができるように支援している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	公衆電話は自由に利用できるようにしている。自分でかけられない場合はスタッフが対応をしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	代筆をしたり、一緒に電話を掛けたり、スタッフが掛けた電話で話しをしたりする等の支援をしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	家族や友人の了承があれば、時間帯を配慮し本人の意向に添い電話をできるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	手紙は利用者本人にその日に手渡している。代読したりする等個々に対応をしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	利用者の希望時には、電話受取りと対応の協力をお願いしている。遠方の家族については、手紙の依頼も行っている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	金銭を自己管理し、自分で使う事は社会生活を送るに当たり大切な事である。また、本人の満足感や意欲向上に繋がる事を理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的に金銭を使う機会を作ることはできていない。外出イベントの際に外食をしたり、希望者と一緒に買い物に行ったりはしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	数名で買い物に行く場合は、事前に連絡をし行くようにしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	日頃の状態を観察し、利用者の状態に応じて家族と相談し、少ない金額を持参してもらう事もある。また、自己管理している金銭で買い物の希望があればスタッフ同行で行き、支払いの支援をしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	金銭に関わる事は、しまい込みによる紛失の可能性もあるため、細かく家族と決めるようにしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	基本的には金銭の預かりは行わない。家族が遠方でありやむを得ない場合は、出納簿を記入し随時確認とサインを受けている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	馴染みの美容室の希望があれば、スタッフが同行したりする等、可能な範囲でニーズに答えられるように対応をしている。	◎	◎	利用者の希望に応じて、馴染みの美容室や歯科等へ、職員と一緒に出掛けられるよう柔軟に対応している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関には観葉植物や、花を飾り小物等も置いて暖かみのある雰囲気を作るようにしている。玄関にはベンチも設置している。	◎	◎	◎	玄関にイスが数脚配置されており、利用者は座って会話が楽しめるよう工夫をしている。玄関には植物が飾られているほか、事業所の名称にちなんだ小物やベンチがあり、家庭的な雰囲気で作所者との会話が弾むきっかけにもなっている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	観葉植物、雑誌等を置いているが、家庭的な雰囲気という事ではない。しかし、利用者が食堂に集まり易い環境にはなっており、常に利用者が食堂で過ごしている。	◎	◎	◎	事業所内は全体的にシックな色調の空間となっており、家庭的で落ち着いた雰囲気である。リビングの大きな窓から海が見え、事業所内に風もよく抜けることから、とても心地よい共用空間となっている。掃除が行き届き、臭気も全く感じられず、雑誌や新聞などがさりげなく置かれている。エレベーター前のスペースには職員が活ける生花が飾られ、季節感を感じることができる。訪問日には食事やレクリエーションの時間帯以外でも、利用者の多くはリビングで穏やかに過ごす様子が見られた。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	随時、換気を行い臭いには注意するようにしている。玄関近くにはオゾンを設置している。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	食堂の北側には窓があり、海の波の形により天候や風の強さを感じる事ができる。また、季節感を感じられるように、ひな人形を飾ったり、季節の花を生けたりしている。	/	/	/		◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファやベンチを置き、会話ができる環境を作っている。利用者個々に自分の場所があり、自然とそこに寄り自然と会話が始まる居場所がある。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレは居室入り口付近にあるが、トイレと居室扉を開める事で中は見えないようになっている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族の写真を飾ったり、自宅で使用していたソファを置いたり等している。	◎	/	◎	居室には一通りの家具が備え付けになっているが、自宅からソファや棚など持ち込む利用者も多い。居室入り口には木製の表札を掲げている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室が分かりにくい方には、分かり易い物をドアノブに掛ける等し、居室の出入りが自分で行えるようにしている。また身体状態に応じて、手すりの取り付けや、居室内の家具の位置交換など随時行っている。	/	/	◎	自分の居室が分かりにくい利用者には、目印になるようぬいぐるみをさりげなく置き、分かりやすい工夫をしている。また、食事の盛り付けや片づけ、掃除などの役割を日常的に行う利用者もいる。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	混乱、不安、失敗があれば原因を考えるようにしている。同じ事が繰り返されないように、随時対応するようにしている。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	ほうきは、すぐに取り掃除ができるような所に設置している。裁縫道具を持ち、スポンの握上げやゴムの入れ替えを行っている方もいる。食堂は、物が少なく、さりげない空間作りができているとは言えない。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	代表者や職員全員が、施錠をする事による、利用者の心理的な弊害について理解している。	◎	◎	◎	事業所の開設当初から鍵をかけないケアを実践しており、職員もお互いに声を掛け合い協力して支援ができています。研修は定期的に開催されており、職員は施錠することの弊害について理解を深めている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠をしない事による、離脱のリスクよりも自由な暮らしの選択の理解を家族に図っている。しかし、利用者の精神、行動面の状況に応じて、一時的に施錠する事もある。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外に出て日光浴をする等、自由に玄関を出ることができるように玄関の施錠は日中はしていない。しかし、離脱のリスクも高い事から、近隣やグループ施設にも協力を得ている。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	利用者個々の病歴や注意事項については、共有のファイルやノートに記載している。また随時、申し送りでも共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日、バイタル測定を実施している。記録に残し些細な変化に注意し発見できるようにしている。変化やサインを介護記録に記載するようにはしているが、個々によりばらつきがある。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療施設が隣接をし、定期的に見守りが来ている。状態に変化があれば看護職と医師に速やかに報告をし、適切な処置を受ける事ができている。かかりつけ医には、書面にて状態報告をするようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	入居時に希望される医療機関を確認し対応をしている。入居後も状態に応じて、家族や本人の意向を確認し対応をしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	スタッフが受診に同行し主治医に状態を詳しく説明したり、書面で伝える等、関係の構築を図っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院の仕方については、事前に家族と相談し決めている。受診後の結果についても、スタッフが報告を受けるようにしている。スタッフ同行で受診した際は、その日のうちに家族に必ず報告をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	日頃の状態や、性格、精神面の状態を細かく情報提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院中は、病院の相談員と細かく連絡を取り情報交換を行っている。退院に向けての支援も、家族の意向を踏まえ連携して行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	外部の研修会に参加し交流を図り、顔見知りになる事で関係構築できるように努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護師には、随時細かく情報を伝え相談をしている。医師にも状態に応じて直接相談をする事もある。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	併設医療機関で24時間、連絡相談できる体制の確保ができている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者の状態観察を行い、随時看護師や医師の報告をし指示を受けられる体制を確保し、早期発見と治療につながっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の情報をファイリングし閲覧ができるようにして把握している。薬の変更がある場合は、専用のノートに記載するようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	氏名、用法、日付を確認しペンで必ず印を入れる。配薬チェック表にも印を入れ、名前を呼びながら配薬をするようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	状態の変化の注意し、変化があれば内服薬の影響も考えるようにしている。看護師や医師に相談し指示を得るようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	薬の服用状況や、服用後の変化等を記録し、随時家族、医師、看護師に報告をしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に終末期の意思確認を書面で行っている。またその時の状態により意思の変化がある事を踏まえ、随時確認をしようとしている。	/	/	/	現状では事業所で看取りは実施していないが、利用者や家族、主治医とも相談を重ね、職員はできる限り事業所で過ごしてもらえよう支援している。医療的な処置が必要な状況になった利用者の対応は困難な面も多くなって来るが、身体的に重度化した利用者には、機械浴槽を新しく増築したこともあり、職員の対応が可能になっている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人、家族、職員、医師間で随時話し合いを共有する事ができている。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状でどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員の不安な思いを理解している。職員の力量や施設の現状を踏まえ、どこまでの支援が可能かを判断をしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	施設として出来る事、できない事。医療が出来る事等、医療と介護を明確にし、協力して支援する事を伝え理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	医療機関とは密に連携を取り、家族とも共有している。家族の意向や気持ちにも配慮しチーム支援ができるように努めている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	対話の機会を持つようになっている。利用者の状態だけでなく、家族の不安や心配、悲しみを受けとめ、家族の変化する気持ちに寄り添えるようになっている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に研修や勉強会に参加し学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症の勉強会やミーティング、模擬訓練も実施している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	最新の情報を収集できるようにしている。グループ施設内でSNSを活用し共有できるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	市町村からの情報や、インターネットを通じて情報収集をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	一動作一洗いの徹底。マスクの着用。次亜塩素酸水や強酸水による消毒の徹底を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	利用者のマイナ面に重点をおかず、プラス面を主として話をするようにしている。共有、共感し施設との繋がりを家族にも感じてもらえるようにしている。	/	/	/	定期的に洗濯物を家族が取りに来ている利用者もあり、家族等の面会は多い。面会時には積極的に職員から話す時間を設け、日頃の利用者の様子を報告したり、家族の要望を確認したりしている。運営推進会議等の行事案内を掲示しているが、管理者は周知が十分ではないと感じている。先日、エレベーター内に行事案内を掲示する工夫を試みたところ、家族からの反応が大きく、今後の周知方法の工夫のヒントになった。また、以前から課題にあがっていた事業所の便りや新聞といった形式での家族等への報告方法はまだ検討中であり、どのような形のものか職員間で模索している。職員と家族とのコミュニケーションは上手く取れているため、事業所の運営上の事柄や出来事について分かりやすく報告できる工夫を期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	面会時にはスタッフ全員が声を掛けるようにし、利用者の事以外に世間話をする等雰囲気作りをしている。いつ、誰が来て来やすい環境作りを努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	イベント時には家族に声掛けを行うが、なかなか参加には繋がらない状況。	○	/	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	個々に応じて、画像や近況報告を記載した「たより」を作成し、遠方のご家族に送付している。しかし、全利用者には行うことができない。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	家族からの質問や、不安なことについては随時答えるようにしている。また、意見箱の設置をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	入居時の聞き取りを基本とし、入居後は家族との関わり方から関係性を把握するようにしている。1人1人家族との関係性は違いがあり、その方に応じ構築できるよう支援をしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	来訪時の説明のみであり、利用者全員に伝わり理解を得ている状況ではない。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	x	家族同士の交流の機会はまだあまり持てていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時にリスク説明を行い同意を得ている。状態の変化に伴い、随時家族にも相談し対応を決めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には、必ず日々の状態を説明するようにしている。また、家族が相談しやすい関係性の構築に努めている。転倒等の事故があれば当日に必ず連絡をする等、積極的に行っている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には文書を具体的に説明し、理解を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居時には、しっかりと説明を行い家族や本人の意向を確認している。納得した退居ができるように、退居先施設や在宅CMと連携を取る事ができている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	文章にて詳しい説明をし、同意を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を活用している。	/	◎	/	日常的に散歩の際に近隣住民と挨拶を交わす程度の交流に留まっている。運営推進会議の場で地域住民等から地域の行事に誘ってもらうことも多く、管理者は、「今後さらに地域との関係性を深めていけるのではないか」と感じている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	近隣住民の方には挨拶をするようにしている。利用者との散歩の際に会話をする機会もある。地域の敬老会に参加もしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	施設周辺に住宅が少ないが、温かい気持ちで見守ってくれていると感じる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	運営推進会議の参加はあるが、地域の方が施設に来られる事は殆どない状況。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	住宅や住民が少ない事もあり、あまり住民の方と接する事は少ない。しかし、頻りに会う方とは、世間話をしたり、育てている柑橘類をいただいたり良い関係ができています。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	○	グループ内施設で共同で、幼稚園の慰問を受けたりしている。施設単独での受け入れや働きかけは十分ではない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	参加の意向がある方や、身体の状態でも可能な方は、敬老会に参加をしている。地域からの夏祭りの誘いもいただくが、参加には繋がっていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	○	近くのスーパーに買い物に行ったり、近隣を散歩したりする等、地域に出るという事を意識はしている。スタッフ、利用者共に顔なじみの関係が構築できるように努力している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域住民の方の参加はある。家族には、掲示板を利用したり、個別にも声掛けを行い依頼するが、参加には至っていない。	×	/	△	定期的に運営推進会議を開催し、参加者に事業所での様子を報告したり、地域の行事に誘ってもらったりするなどの交流をしている。以前からの課題であった会議への家族の参加は、まだ改善ができていないものの、新しい利用者の家族に対して積極的に声掛けを行っているところである。また、運営推進会議の報告方法について、参加していない家族へ向けてより参加をアピールできるような工夫を期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	利用者の状況や活動、外部評価や実地指導等の内容や、目標等について随時報告をしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	地域住民の方の貴重な意見は取り入れるようにし、状況報告も行っている。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	年間で日時を設定しており、時間や日程の配慮については十分ではない。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	口頭で報告をしたり、希望に応じて書面を閲覧できるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	毎日、朝礼で理念を復唱している。毎日復唱する事で共通認識を持つ事ができるようにしている。また、理念に添った支援ができるよう努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関やユニットに理念を掲示し、またスタッフのユニホームにも理念を記載している。入居時には詳しく理念を説明するようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修や勉強会に、積極的に参加できるようにしている。				法人内でスポーツ大会やマラソン部などの活動を行っており、管理者は積極的に職員のストレスを軽減するための環境づくりや取組みに努めている。職員から事業所内の人間関係がとても良く、離職も少ない様子を聞き取ることができた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実務を通して勉強をしたり、技術取得ができるよう取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の努力や、勤務状態を把握し、定期的に評価をしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域主催の研修等や、介護支援専門員の研修会に参加できるようにしている。同業者と交流し、刺激を受け、情報交換する事で意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	社員旅行や、グループ内でのスポーツ大会、マラソン部の参加等、発散できる環境作りに努めている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	内外部の研修に参加し勉強している。				定期的に虐待防止などの勉強会も実施され、職員の学びの場が確保されている。事業所内で気になることがあれば、主任を中心にお互いに声を掛け合える環境があり、主任も職員の不適切なケアを見逃すことがないよう十分に留意している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日、朝礼や申し送り内で話し合う機会を設けている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることのないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	不適切なケアと少しでも思われる状況が発生した場合、すぐに主任や管理者に報告をする体制を取っている。時間を置かず、すぐに職員間で話しをし敏速に対応できるようにしている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	職員の態度や言葉に常に目を向けるようにしている。状況に応じて直接話しをしストレスや疲労が蓄積しないようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	内外部研修にて学び、理解する事ができている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	委員会にて検討したり、朝礼の後に議題に取り上げて話しをしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族には、身体拘束をしないケアについて、弊害も含めしっかりと説明をし理解を得るようにしている。それに代替えとなる支援を見つけ提案をしている。				

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	内外研修で学び理解している。成年後見人制度については、今までの事例がない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族からの相談があれば対応するようにしている。玄関にパンフレットを設置している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターやケアマネージャー等、相談できる関係性の構築はできている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時のマニュアル作成は行っている。また、消防から直接指導を受ける機会も持ち、周知できるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	消防からの救急隊による指導を定期的に行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	なぜ事故が起きたのか、なぜ事故が起きそうになったのか等を職員間で考えるようにしている。ヒヤリハットの時点で検討する事で事故に繋がらないようにしている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日々の状態を報告共有し、リスクを推測し回避に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し周知している。苦情対応については、主任が主に対応する事としている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	相談、苦情マニュアルに沿って対応し迅速に行う事ができるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情に対しては、対応と改善策を明確に提示するようにしている。家族や利用者との関係がマイナスの方向にならないように、対話をすすめるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	話しやすい環境や雰囲気作りを努めて、意見の内容により、個別に聞いたりする等対応を変えている。			◎	日頃から利用者には職員が個別に話を聞くように支援している。面会時には家族に対してもしっかりと時間を取り話を聞くよう努めている。家族からの要望はあまり出されないが、事業所としてできる限り要望に応えられるよう工夫して対応している。また、職員は気軽に主任に相談できる環境があり、相談内容によって主任から管理者につながることもできる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族来訪時には、話しや相談しやすい環境を提供している。しっかりと対話をするようにし、そこから要望を引き出す事ができるように努めている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初は行っている。入居後は、随時説明している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場に足を運び、意見や要望を聞くようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員1人1人の意見を聞く機会を持っている。利用者の事を思い、利用者の立場になり支援ができるよう、随時指導アドバイスをしている。			◎	

愛媛県グループホームどんぐり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価の意義や、目的を理解するために行っている。	/	/	/	事業所として外部評価に積極的に取り組んでおり、その結果や経過を運営推進会議等を利用して報告している。運営推進会議には家族が参加していないこともあり、家族への報告が十分にできていない。外部評価に関する家族等への周知方法について、工夫することを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	ミーティングで課題を明確にし、職場の意識統一に向けて、勉強会に繋げている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	実現可能な目標設定をするようにし、努力している。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議を活用している。また随時家族への報告も行っているが十分とはいえない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	事業所内での取り組みや成果については、随時確認をしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	各マニュアルを作成し周知している。スタッフが閲覧できるようにしている。	/	/	/	法人としても事業所としても、災害への備えは十分にできており、積極的に防災訓練も実施している。地域住民や消防署と十分に連携は取れているが、せっかく行っている訓練の実施や災害対策等の家族への周知がまだ十分ではないため、伝達方法の工夫を望みたい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	日中や夜間帯を想定し訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	防火管理者により消火設備や避難経路の確認。非常食についても定期的に確認し、賞味期限が切れる前に交換をしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	◎	運営推進会議を利用し、訓練内容を説明して理解を得ている。また、グループ内で協力しあう体制も整備している。随時、消防署にも相談し指示を得ている。	x	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	消防や警察、グループ施設で共同訓練を実施している。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議を活用し、認知症への理解やケアについて情報提供をしている。認知症サポーター養成研修受講者もいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	電話での相談支援や入居申込時の相談、運営推進会議を利用して行っている。	/	○	○	事業所には、時々地域住民からの相談があるほか、中学生の職場体験ボランティアの受け入れ等、地域の各種機関との連携が取れている。管理者は事業所が地域のケア拠点としての機能を持つことに関して、今後の長期的な目標として捉えている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	x	できていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	中学生の職場体験については積極的に受け入れをしている。また依頼があれば個別に対応をしている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	研修や交流会があれば参加し、連携を図る事ができるように努めている。	/	/	○	